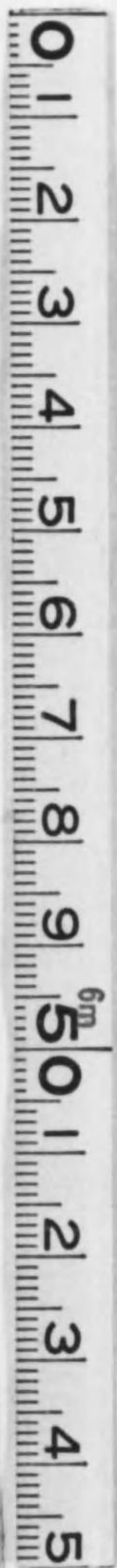


特 258

375

占  
考  
要  
訣



始



特258  
375



平澤隨貞口授

考要訣

東京生生書院發行



# 占考要訣

平澤隨貞先生口授

門人 黒川義門筆記

廣按するに、此書中記する處は當流秘傳にして靈狐傳等に闕する説多しと雖も、其語を省きて、他を見る時は、望洋として筆記する者の本意を失ふ、所謂鷄肋にして、取捨は人にあり、其大意を審するに始めに卦の大意、初心の會得すべきもの數條を挙げ、中は又位の標準を示し、終りに六十四卦の象意を集めて大成す、吾黨の子必読せずんばある可からず、又附録の一條は寺尾氏の筆記にして是又寸金片玉の粹、近時庫中に是を得たり、之愚な婆心本集の闕漏を補ふの一端而已。

編者曰く、時代の推後したる今日、此書を見る時は聊か首肯し難き矣無きにあらねど、筆者の意志を尊重し奈りに加筆せず、たゞ讀者の便を計りて少しく順序を變更し或は参照すべき項を二三挿入したるのみ、幸ひに諄せられよ。

占考要訣目次

諸卦秘說

爻位秘解

六十四卦月の定局

六十四卦秘解

上經三十卦

乾 爲 天	九	天 澤 履	一四
坤 爲 地	九	地 天 泰	一五
水 雷 屯	一〇	天 地 否	一五
山 水 蒙	一一	天 火 同人	一六
水 天 需	一一	火 天 大有	一七
天 水 訟	一二	地 山 謙	一七
地 水 師	一二	雷 地 豫	一八
水 地 比	一三	澤 雷 隨	一八
風 天 小畜	一四	山 風 蠱	一九

地澤臨	一九	天雷无妄	二三
風地觀	二〇	山天大畜	二三
火雷噬嗑	二〇	山雷頤	二四
山火賁	二一	澤風大過	二四
山地剝	二二	坎為水	二五
地雷復	二二	離為火	二六

下經三十四卦

澤山咸	二六	雷水解	三一
雷風恆	二七	山澤損	三一
天山遯	二七	風雷益	三二
雷天大壯	二八	澤天天	三三
火地晉	二八	天風姤	三三
地火明夷	二九	澤地萃	三三
風火家人	二九	地風升	三四
火澤睽	三〇	澤水困	三四
水山蹇	三〇	水風井	三五

澤火革	三五	巽為風	三九
火風鼎	三六	兌為澤	四〇
雷為雷	三六	風水渙	四一
艮為山	三七	水澤節	四一
風山漸	三七	風澤中孚	四二
雷澤歸妹	三八	雷山小過	四二
雷火豐	三八	水火既濟	四三
火山旅	三九	火水未濟	四三

附錄

八卦之大意	四四
八卦体用說	四四
疾病を考ふる傳	四五
変爻内傳	四五
卷言傳	四六

向卦時之意

八卦位取りの傳

中爻傳

占例

○川へ入り人を欺き逃げ去りたる事

○北回辺にて石より人の生れたる事

○入湯の喧嘩を考へ知りたる事

○大家へ召されて、おて物の事

○病人占ひの事

○可笑き占ひの事

○長局に文のかたぢ現はれし事

○乳心病人に切りかけられし事

○蝶を云ひ當てられし事

四六

四七

四七

四七

四七

四八

四九

四九

五〇

五一

五一

五一

五一

# 占考要訣

## 諸卦秘訣

○苦の卦 小畜は上向を憚りて苦しむ意、困は後の爲に苦しむ意、小過は向格同席の者に苦しむ意、明夷は舊古修行の爲に身を苦しむの意、他卦の苦しみに其意異なれり。

○親しみの卦 家人は色情に親しむ意、損、兌、は弟に親しむ意、同人は自他の隔にして親しむ意なり。

○咸、同、人、皆、其、元、に、纏、れ、有、り、て、今、濟、た、り、と、云、ふ、意、あ、り、

○天、困、旅、屯、益、皆、當、時、專、ら、苦、し、む、故、に、分、別、ニ、フ、三、つ、に、な、る、意、

○隨、屯、益、中、孚、兌、皆、色、情、に、て、全、銀、を、人、に、施、す、意、損、大、壯、義、理、に、因、て、全、銀、を、施、す、意、な、り、

○動の卦 豊、家人、貞、升、皆、住、所、動、く、か、或、は、旅、行、の、事、あ、り、凡、て、靜、かなる卦は動き、騒しき卦は不動のものなり、爻象口傳

諸卦秘訣

- 數は易の魂なり、心は五臟の魂なり。
- 苦の卦殺伐の卦は、出産又は奉公人様にはよきものなり。
- 八純の卦へ乾爲天、兌爲兌、離爲火、震爲雷、巽爲風、坎爲水、艮爲山、坤爲地と、帰魂の卦（火天大有、雷澤帰妹、天火同人、澤雷隨、山風蠱、地水師、風山漸、水地比）は力を入るものなり、大人は力を用ひて人を使ひ小人は其身の事に力を用ふるなり、又争論と名代の意を的とす。
- 一陰一陽は我儘なり目上の者を侵し掠むる意、己が爲ばかり謀りて我は喜び他人は悲しむ意、二陰二陽は互に悦ぶ意、凡て陰又多きは氣弱く陽又多きは氣強し、物の味之に準ず、陽又多きは喜び陰又多きは怒る意なり。
- 陽中の一陰、陰中の一陽、皆嬖姓の理あり、八純の卦も亦嬖姓の理有り、震巽の二卦を主とす。
- 家人、賁、漸、皆男が女を隠れ団ひ置く意あり。
- 兌、睽、履、中孚、帰妹、皆女は隠して男を持ち、男は隠れて情婦を持つ意なり。

- 震は順にして進み、艮は逆にして止まる、故に主親に背く意あり。
- 履、咸、離、革、皆離れ際の大ヶ敷ものなり、譬喻は女なれば男は離れる氣の無き理なり、故に女に向ひ、男の恨ありと云へば驚くものなり。
- 比、萃、困、皆現在苦しむ最中なりと云ふ意、男は色情金銀、女は色情嫉妬の類、廣く推考す可し、又大有、師、は共に住所の苦しみあり。
- 賁、睽、師、中孚、臨、節、以上六卦皆偽を云ふ者なり。
- 履は先の男を捨て、後の男につく意なり、兎角男に面目を失はせる意あり、井、兌、睽、革、共に先の夫を捨て後の男に附く意あり。
- 姤は雨露の恵、地に降りて、草木を養ひ丈を伸ばす意、又上より物の落かかる株なる事あり、不忠、不孝者、天誅遣れ難くして、天命、天罰、雷鼠に撃れ、立所に首を奪はるるの類あり。
- 泰、否、は父母の縁あり、訟、夬に伯父、叔母の縁あり、革、豊は親類の縁あり、咸、損は知合ひたる時、親類中なりしと云ふ意あり。
- 否は當時の人にて身に才徳有りとも時に合はず障りありて立身出来難き意、小人は之に反す。

○蒙、同人の類は親の憐み過ぎて育てたるが故に正直にして、世事に疎し、爲に人に倒さるる意、又同人の初又変は親しき人我爲に存る、三又変は親しき人敵となりて、我を責むる意あり。

○兌は少女なり、空き金の和ま也、十四五歳にて初て智慧付き、其始まりは欲心と色情なり、色情の始は美男を好む、淳氣の色情故に後の破れを知らず、故に此卦女に三段の口傳あり。

○大過は百事纏れ有り、最も三段の口傳あり、始は自己の職業を嫌ひ、中年は住所に苦勞し行末のつまらぬ色情に面目を汚し、老年は手ありとも用に立たず親しき人は遠國にあり、總じて先意地なる心あるものなり。

○離は親に早く離れ、万事不仕合なり、故に他人に親しみ難儀するなり、男は妻縁薄く二三度も変る、女も男縁薄し、此女は又短くふとリ風俗悪しきものなり。

○晋は立身の卦表向にかかるなり、未済の破れは詞ひ難く、既済の破れは詞ひ易し、未済の夫婦は色情にて取結ひたるなり、又物をまねる理あり、故に子も亦色情になやむ。

○睽は時に隨ひ時に変ず、君子は正智を以て時に応じ、小人は邪智を以て世を渡る、睽は能く是を保持り、又口論を舍み居る意あり。

○節は何事も吞せ早く、睽は吞せざる事を吞せみたる体に見せ偽り飾る、故に能く人の嫉嫌を取る、女は男をたぶらみし而も退屈の早き意あり。

○損、願は意の通ずる卦なり、皆目上の人の詞の助を得て引立てられ親の力をかりず、自分に身上取立つる意あり。

○隨の故郷を忌むは道にかなふ、姉妹の故郷を忌むは道に背くなり、中孚は嫌妊の象なり、豫は養育の象なり。

○此、恒、豊、皆立身出世すれども、取付所なく苦勞絶えざるものなり、明夷、謙、稽古修行して後にはと云ふ心當あり、別して金銀を取る意專なり。

○節は死たる象なり、死たる者は親にても外に出して、くつろぐ意あり、賣物は外へ出して喜ぶ是等をよく考ふ可し、大有は女の厄介を引受くる苦勞あり、節は厄介を外へ出す謀あり、又節は物皆換り行きて還へ度らぬ理故に己一代の家業にして、子孫に傳へ難き意あり。

○坎は表向にぶく見えて内心發明なり、又過去未來へひびく意あり、離



は表向発明に見えて内鈍き処ある可し。又現世の理あり。

○需は言ひ難き所へ然心を云ふ意あり。

○井は枝を折られ葉を摘み取らる。故に親類に離るる理あり。然れども幹は犬となるが故に再び芽を吹き出すなり。女は夫との不和及其不利口に苦しむ意あり。又思案まぢくなるものなり。

○比は他より内へ入来る象。婦人長袖の縁辺より吉事告げ来る意あり。

○萃は常に年月を算用して見る意あり。明夷は年月を数へ工夫を積む意

○升・損・臨・は身二に大に背を折るものなり。

○姤・渙・恒 皆心の定りなきものなり。

○否・觀・明夷は皆必ず運を開くものなり。

○立身の卦 晋・大畜・夬・升・同人杯なり。

○死靈邪氣の卦 坎為水・坤為地、姤・謙・なり。又蠱・小過に死靈あり。

○死靈 女に男の恨みある卦革・離・履・咸なり。

○狐附の卦 坎・蠱・婦妹の類なり。

○睽・婦妹・蒙・未濟・中孚、皆胎の卦。又中條流の療治にかゝる娘

又困者の類 廣く推す可し。

○鼎・井・共に五爻変大事なき卦なり。又艮卦を上に受くる時は五爻変大事なし。

○解・未濟・大有・雨中に此卦を得る時は翌日は晴天なり。晴天の時に是を得れば、翌日は雨降るか

曇天なり。又巽為風は(裏卦を云ふか)兌為澤なるが故に雨か風なり。艮為山は地上の山なれば冬の占には雪なり。頤は内に人の籠る象なれば曇りの類、大過は回遠ひの理、故に晴れそうにして降り。或は降りそうにして俄晴の類、蹇履共に足に蹇あり故に雨と知る。夬・大壯・皆纏ならずして後雨晴るるの類、同人之趣と交ぜしは俄雨又は雨宿りなり。同人は物に便る、遁は逃れると云ふ意よりの理、剥の坤通り雨或は小降り、頤、渙の訟は争ひある故に風あり、艮山に小雨ある意。○必死の卦 咸 感 同人 親 臨 行て 回らず 比 群 家人 人に 便る 晋の 剥 是 病人に 甥・姪のある者は 死す 又 當分の 病に 必死の 卦を得れば 翌日は 快復の 意なり、口傳

○兌は上より下に手に手をかけたる象、妾杯の類、巽は下より上に手き

かける象なり、色情なり易し、又下より上を狙ふ意。

○凡て吉凶の占に於て坎となるは吉、然れども病には邪祟あり、震は乱症なり。

○臨の復を得たる色情の占、臨は近くに居て隔あり、隔ありて色情類ふものにあらず、簡レのみなり、復に往來の意あり、幾度通ふとも応諾せず、然れども略して言ふ時は吉、いやには非ず跡は自在なり。

○乾坤の二卦を父母として、乾の中文變じて離を生じ、坤の中文變じて坎を生ず、離の下變じて艮を生じ、離の上變じて震を生ず、坎の下變じて兌を生じ、坎の上文變じて巽を生ず、故に百事坎離の二卦は大事なり。

○六十四卦を六十年に配當する時は、四卦餘る、乾、坤、既濟、未濟なり、残り六十卦を配當す、甲子の歲に坎為水を當つるは、天一水を生ずるの意なり。

○仁は万物を生ず物を憐れむ象、廣按するに卦に配當する時は三三三泰なり、是正月の卦にして春の初仁に當るなり、義は万物実のり収む耻を知り悪をにくむ象、廣按するに是三三三節の卦に當るなり、下卦兌正

女を司り節義の象なり、禮は万物茂盛の象、上下尊卑を正す、廣按するに履の卦に當るなり、三三三中卦の離を夏とす、中卦の象を取るは禮は中和を貴む義なり。

智は万物伏して隠れて來年の氣を含む、是非を分つ取とす、廣按するに是三三三蹇の卦に當るなり、前水後山にして容易に進まず、進退の機を察す、坎は冬、艮は冬暮の候是來年の氣を含むなり。

信は中央にして、四方の本をつとめ誠ある象なり、廣按するに是中孚三三三の卦に當るなり、大離の卦にして中の二爻坤土なり、即ち四季の土用四時に應ず、百事信なければ立たず卦象を見て察す可し、是故に易は、宇宙最第一の大經鬼神の奧なり、慎まざるべけんや。

○立身の卦、師は武士になりて吉の卦、噬嗑は所人になりて吉なり、師は武功に因て立身し、噬嗑は金銀をもちうけて立身し、益はものを盗んで立身し、隨は住所を替へて立身するなり。

○履は上に口ある故に踏む、姤は下に口ある故に蹴まるるなり。

○晋は女が男を勤めて商に出ひ、節は男の出つるを引留めて、飯を炊かす意あり。



- 震は費く、兌は賤しき意なり。
- 井は使りを失ふて其心下り沈む、譬喻は忘中の如し。
- 小畜は自己一身の用事、大畜は他人の用事を詰む意なり。
- 小畜・大畜共に人の噂を云ふ意あり。
- 大壯は始終の爲と思ひ、无妄は當分の爲と思ふ意あり。
- 離は大馬の蹇換、坎は言葉の証縁なり。
- 始は先祖の舊恩子孫に榮る、萃は自分の積悪死刑に處するなり。
- 節は死たる象、屯は生るる象なり。
- 渙は出店を出し、益は出店をしまふなり。
- 萃は凡て上品を盗み、否觀は財宝を盗むなり。
- 萃は凡て上々の方の事を見、升は下々の事家内の事より推す可し。
- 蹇・旅・どうも仕にくいと云ふ意、又行かねばならぬと云ふ意あり。
- 損・臨・一生身を損せざるものなり、既濟・明夷は人の悪事を身に被る意あり。益・晋・大過皆己より身を破る意なり。困・明夷・小過・皆苦勞の禮を自ら作り出して難儀するなり。
- 節・兌・小過皆約束の意あり是蓋し色情の意より轉用す。

- 比・萃・はよく酒を呑意あり。
- 兌・巽・艮・皆一度災難に合ひたる意あり。
- 豫・復・伸・皆金銀貸借にかかるなり、需・節兩卦とも金銀を持つ意、需は表向にて持、節は内分にて持つなり。艮・坤・姤・皆金銀を包み籠る意あり。
- 觀・咸は固て望む意、小過・臨は見て望む意あり。
- 觀節・中孚・賁・艮皆謀・方便を用ひてする事吉、訟・大畜・小畜は自分の氣隨にする事吉、震爲雷・井命にかけて望事あり危けれども未吉なり。
- 井巽は皆目上の人の言ふ通りにしては自分の勝手と思しく、背けはます／＼凶なり。
- 巽・恒は身方を引き立て他人を疎遠にする意、家人損は他人に親しみ身方を疎遠にする意、夬・大壯・晋皆親類に意見する人なし、故に氣隨者なり。大畜・小畜は身に損なれば他人にまで損をかける意あり。
- 坎離の二卦つくと離るとあり、離ははなれて利なり、坎は添ふて利なり、坎・離皆親に早くはなれ他人の世話になる人多し。

- 屯・豫・小過は親の言て謀悪しきものなり、故に智不足なり。
- 屯・益・隨皆うらやむ意あり、又住所静かならざる理あり。
- 損・頤・金銀を使ふて女を手に入れる意、噬嗑頤物を半にして末を還げず、表向を飾りて人をたます意。
- 豊・恒は身の程を知らず及はざる事を工夫する意、晋明夷一度破れざれば凶、然れども破るる時公事あれば大凶なり、比・大過・坊主長袖の意あり、師益は威勢ある卦なり。
- 艮・離は物を求め度き意、謙履は主人を求め度き意、觀萃皆地面に付事多し願望の類注意す可し。
- 泰・同人は氣のよき故に、人に窺れるものなり、既濟・泰・訟皆良く當世に合ふものなり、別して又氣に合ふ意。
- 履・革は女は衣類をかり取りにあひたる意、賁・旅・履・謙・皆衣類に付物入りあり。
- 訟・觀・密通の意あり、无妄・隨・怪我人のある意、爭論の類活断す可し、革・履・訟・浸皆咒咀調伏をなす事あり。
- 夬・離・にせ物の意あり、夬・大壯・師・賁皆政務にかかるなり。

- 同人・豊・魚を釣に告、豫・晋・浸は魚を釣り鳥を販るに凶なり。
- 噬嗑・離・未済は往く先に久しく居らず、盛り久しからざる意あり、豊・革・江戸住居にして、他国へ行く事ならざる意、婦妹・中孚・履・兌・賤は皆至つて、そむく事早き意あり。
- 小過・明夷・大壯・中孚・大過皆困まれて動き難し禁固人の類なり、訟・賁・節は身の上益れつなぶれたる意あり、巽・明夷は知を賣る業なり、豫・坤・は手に覚えたる藝を賣る意、隨は口か手に藝有り。
- 浸・益・師・履・屯・蒙皆病氣あり、同人・漸・咸も亦病弱なり。
- 小畜・隨・皆女は經水の前後なり、蒙・屯は經中の最中なり。
- 履・兌・革・咸・噬嗑は出奔する意あり、損・節は外圃を失ふ意、屯・蒙・豫・皆幼少なる者を養育する意あり。
- 震・噬・嗑・書物に譯あり、看板帳面杯の類。
- 兌・夬・晋・家人・屯皆大災ある意、風立つ日慎む可し、或は既に大災ありとす。
- 蠱・師・夬・皆手を下して教罰する意あり、无妄・隨・益・皆手を下さず

人に云ひ付て致罰せざる意あり。

○凡色情の卦は俗にヤミクモと云ふ意あり、其故は色情には嬖姓の権みあり、其憂を省みては取かか事ならず、思ひ込たる事存れば末をかまはずヤミクモといふ意なり、然れば色情の卦は医の吉凶には凶なり又色情の卦は主親に背く理あり。

○旅行の類任所変る卦は其所に久しく居らざる象たり、又旅行の卦は出る方吉にして止るに凶なり。

○兪て我尅する処には必慰みの意あり、衆む事には金銀を要し身の障りとなるものなり。

○比和する卦には好む事あり、変卦にある時は別して其意強し、又本卦の比和は股れ変卦の比和は弱ふ意なり。

○居所に人を南に置き、人北方に居る時は邪氣を受くるものなり、火を北に置いて、人南に居る時は清氣を受くるものなり、又北面の家に邪氣あり、北塞りて南に火ある家には病人多し、斯の如き家は北へ吹貫き氣を通はず事吉なり。

○変爻父母の時は心に油断多く、後悔ありて、何事も我思ふまゝにな

らずして望事絶えず恨む意あり、然れども後は吉となるなり、兄弟の時  
時は争論、妬みおたむ意、不足絶えざるものなり、  
・妻財の時は慰事多く、婦人に付て耻辱を受くる事あり、  
・子孫の時は物に羨ましき意絶えず、欲心深くして工夫をこらす、  
又泣笑する意あり、  
・官鬼の時は己れ責ししとなして、他の嘲を顧みずおごり高ぶり妬み、にくし  
みを受けて落つる者あり。

爻位 秘 解

○初爻変、上に物を載せて、諸事手届かず他の爲に使はれる事多し、足  
初爻の出所悪しきに依る、凡て初爻なる故手回取る事多く色情も心計  
りにて業は届かぬと云ふ理なり。

○二爻変、物に少し手がかりの出未たる意故に物事進れ難く目に見ると  
心を動かす、又名代となる故百事調ひ易き意あり。

○三爻変、進んで躍り出づる意、諸事決し定む、故に油断あれは手戻り  
なり、足三爻は上卦へ渡る中間の爻なればなり、多く仇となる意あり

○四爻変、諸事心定まらず油断あれは手戻りなり、又危き場所天命に背

くなり、下卦に渡る中間故に往つ戻りつの意あり。  
 ○五爻変 身命に拘はる大切の爻なりニ爻と五爻とは陰陽相応するを宜しとするなり。

○上爻変 了簡にあまる、図はづれ、後悔する理、己は座して他の動く意あり。

六十四卦月の定局

- 十一月 復 小畜、賁、節
- 十二月 臨 鼎、大畜、解
- 正月 泰 大有、既濟、漸、恒、同人、蠱、咸
- 二月 大壯 大過、小過、革、无妄、訟、睽、晉
- 三月 夬 井、渙、履
- 四月 乾 艮、離、巽
- 五月 姤 旅、困、豫
- 六月 遯 家人、屯、萃
- 七月 否 歸妹、損、師、比、隨、天許、益

- 八月 觀 否、夬、蒙、蹇、中孚、明夷、需
- 九月 剝 噬嗑、謙、豐
- 十月 坤 兌、坎、震

六十四卦純解

☰☰ 乾 爲 天

満て欠ける意、晝夜に廻る理、止めぬお意、かけ流すの物、追か付る意、賦しき河短者の機、賁人をまねる意、賦が賁く成る意、台に載する意、水辺險阻の類、取有る物の消ゆる意、平み勝の象、世帯精あ山意、尤かに満たる取あり、盛のもろき意、取をみゆる意又たしては道心坊の類、表向の理、不骨なる意、氣又大なり凡て陽又多きは氣の強き意、先祖盛と現在衰えたる意、一生働いて其身の功に存らす、子孫に顯るる意、又シメリヒしたる卦故に無幾の人とす、我弱き故に人にもたれる意あり、物のあはれかかりて古き事云ふ意、子孫の多き意、又錯くさりたる金子孫にさわる意あり、表裏ある卦、世渡りの下手なる意、奢り買する事

乾爲天

嫌ふ意あり、人品よくも智の無き者、廣大の象、行衛知れぬ意有り。

ト筮首節に曰く、大龍御天之謀、廣大包容之象

生れたる位ばかりよくして甚しき苦勞あり、目上の氣つかひ、氣兼金銀に付苦しき、たま／＼全銀あつかへども手に入らず、位ある人は良く軽き人は殊の外苦しむ事のみ多し、貴き人をまねたり又はいつける事あり目上の人とすれ台有、思案おそく

全物の理は持まへたり、貴く高く、うら表あり、廣きか満て欠くる理位ばかりよくして其もと賤しきより出たるもの類、へりのたつ物か水氣有、台にのする忍ん蘇の崩れ破るもの古きもの、古人は貴く、大に廣く、甚苦勞、高き所人がほりたるか山水の辺歩行たか、文画勇にして大に徳あるか、人の爲に苦しみたるか、世の爲に成る事仕残したるか、○待人相手あり遅し、○失物教有る所に有り出難し、方は西北、○願望様子ばかりよくして叶ひ難し、○天氣曇るか降るか、○賣買賣るに良し買ふに思し。



坤 爲 地

詞に表裏あり、腹の大なる人、人を扶助する意、家内の世話事有り、なす事急かざる意、物をのする理故、婦人舟車の類、音曲拍子の意、隠者の類、さびしき意、水面大海廣野の象、幽闇にしてはかり難き地、闇夜の理、女同士疑ひ迷ふ意、少々、利を取る意有り、全銀の通路よき意子孫末々に残る意、古郷へ行く意、氣の弱き人、乾を裏に含む故に大なる望有る人、關しき役を勤むる意、親しき人の世話にて立身する意、夜を晝とする人、全銀の遣り取りはげしき意、坤、復、謙、益、皆同じ。

ト筮首節に曰く、生、載、万物之課、博、厚、無、疆之象

人の世話事多くする事有り、住所の苦勞、全銀の世話、小用とりこみ、晝夜心いそがしく心勞するなり、まち人なれば相手あり、ひやうしとる事か、すりみびきこまかなるか、ぬるか、ほしかはかしたるか、裏表あるものか、古人は旅交るか、しゆ行あるか、大ぜい集めたるか、ひやうしとる事有るか、遠方へ行きたるかかなるべし、○待人遅し、○失物尋ねべし、出づる事有り、○願望長引くべし、世話事多し慎みてよし、○天氣晴るべし、○賣買利も損もなし。



水雷屯

歳を調べる意。年始帳悔悵の類。水難、火難、盜難の類あり、貪者不勝手の意。龍の沈水に居る卦なればなり。君有れども臣怨くして其徳行はれず。又士卒令に従はぬ意有り。水辺岸の意。居所に苦しみ或は足に苦しむ意。費物は水にくさる故早く賣つて吉也。人の事を苦勞にする意。矢物は一尺にひまなき者の取る意。身の上は妻子を案する意。身を損して立身を望む意。身は静かにして心騒がしき理物を見合はす意。門戸あけたてに係る舟の類。人柄を見立て頼む意有り。軍兵の類。敵は坎にて謀有り強く味方は震にて徒らに騒いで計り居る意。芸能不鍛練の卦也。心臓不足の象有り。事の破れに及ぶべきも側に良き人有りて、事にさせぬ意。物のむさい。またない云ふ意有り。

ト筮旨筮に曰く、龍居ニ浅水ニ之課 萬物始生之象

思案定まらず、水の上に浮きて流るる様なる心もちなり例へば水の底に水有りて、一旦養はれ、たすかれども養ひへてくさり、其体を失ふ。畏ほど相生の思しき事を知るべし、さるによつて、住所の苦勞甚しく

難儀水難にあふの心有り、水に忍ん有り、敬あふきものか、辱むる縮めくくりひらつくか、手みあるか、破れやすき物か、古人は難にあひ苦しみ、住所はなれて、遠く歩るきたるか、海川を渡り居るか、終り思しきか。



山水蒙

其の拙き人、酒食に溺るる意。小児の寄合故に、物の成立を待つ意、物に迷ひ人に向ふ意。裏店或は森の陰の意。病みほうけたる意。名所美景の意或は見物時を授す意。氣味のみきと云ふ意。物に不自由なる理貪者の意有り。物にまぎらはしき意。物に推量する意盲人の象あり。怪我をする意。ニ又変人に頼んで少し明を得る意。

ト筮旨筮に曰く、人藏ニ空祿ニ之課 萬物發生之象

女か子ともなどの迷ひくらみたる様なり。もの事定まり難く、ふらつきたる様なり。落付難しされども智慧をふくみ。工國思案の上、事よろしく、とりかたまり未ばよし。文ヒリ、ちやう見事なり。物をおり合ふか、くあひよきか、すりみか

山水蒙



きあるか、つやよきか、子供の持あそび物か、くらさもののか、  
古人は智慧有り、文くわ忠孝か、志深きか、子供が女か小まよふたる  
か、住所にはなれ歩きたるか、未久しき事を工天したるか終り悪しき  
か、

○待人来る事遅し、○矢物出難し、物の中に有り、○願望ものの始に  
長引く、○天氣曇るか雨か、○賣買よろしからず。



水天需

身の上親類にもたふる意有り、前ありて未だ成らざるの象、後吉、云ひ  
難き處へ無心を言ふ意、嫁入り卦口傳、行止りの意岩角の類より推すべ  
し、名城の象、能持合故に今善惡の界、手加減の入る時なり、待者には  
爰看慈慕の情有り。

ト筮旨節に曰く、雲霧中天、之謀、密雲不雨之象

ものの守備ばかりよくして埒の明かぬ卦也、例へば密雲有りて、今か  
今かと待てども降らぬ様なり、待事有れども延びく、になり埒明かす  
志めくくり有る物か、久しく用ひるか、立て使ふものか、古人は時を

待ちたるか、かくれたる事有り、末の世のたすけを工風したるか尊き  
人かなるべし、

○待人時経て来る、○矢物時過ぎて出づる、○願望埒の明かぬ事なり  
長引くべし、○天氣曇るべし、雨か、○賣買利うすし、



天水訟

奉書内意の意有り、生れ故郷を嫌ふ意、金銀受渡の意、百事金銀にて済  
む意、親しき者より、便なきを案する意有り、俄に駭かしく人の跡へ入  
込む意、酒油等の類、城に籠りたる象、明君の臣下を氣遣ふ如く少しの  
事は堪忍して済す故百事内済之意、理有つて勝つと雖も、責人と不和に  
なる意、三人にかかふる事多し。

ト筮旨節に曰く、俊鷹逐兎之謀、天水相逐之象

情こわなる人か、目上の人とすれ合ふか、争ひもつれ六ヶ數人なり、  
願望障り有りて、思案身の上もめにもめ、にらみ合ひ、見くらべ氣に  
はりあり、腹立、怒る心有り、又剣術の指南する人か、  
數有る物か、にらみ合ひ、金物が、するとなるか、挿し込むか、工合

良き物か、穴の有る物か、糸紐 締めくくり、上下用ひる心有るか、  
古人は争ひ終り思しきか、物の師なるか、勢あり 力あり 城郭に籠  
りなどしたるかなるべし。

○待人少し遅し、○矢物中たえてぞむく、○願望もつれて済む口伝、  
○天氣雨なるべし、○賣買懐むべし。



地 水 師

手なれざる事をする意、相手に直に逢ひ難し長袖を入れて吉、心剛にし  
て後日の災害を招く意有り、辛苦艱難久しうして後利を得る意、行きて  
飯り難き意有り、千両の所五百両にて済む意、病難あり、先難後易く終  
に志を遂ぐる意口伝、人に負けざる氣性あり、手紋一樣ならず、謀を尽  
して吉、生死の思危き意口伝、声を発し物をそろへる意有り、欲深き無  
理を云ふ意、女の男に指揮する象、大を小にし小を大にす、又善を悪に  
し悪を善に取なすの意あり、夜分の象、尸を荷ふ佛の理有り、

ト筮首節に曰く、天馬出群之象、以寡伏象之象、  
情剛なる人なり、にらみ合、争ひあてくらべ氣のはりするとなり、人

と仲良からず、我終なる事ある、又大人はより、小人は悪しし、つも  
り思案ばかり大にして内しようは叶はず、腹を立ち、すぢりもちりて  
苦勞多し、ものの師範をする事有り、

するどし、金物か、さし込むか、締めくくり、文くわ押がたみ、長さ  
忽んむすほれたる物か、ならべるか数あるか、とり合す物か、  
古人は戦國の人か、争ひ終り思しきか、いい残したる事有るか、文く  
わ有るか、大せい寄せ師範などするかするどなり、未よからぬなるべ  
し。

○待人来るべし遅し、○矢物出難し、○願望争ひ有り、未よし、○天  
氣、天氣か曇るみ、○賣買争ひ有り中吉、



水 地 比

凡て吉なれども充分ならぬ意、配下部下の多き意、小人は家を敬る事多  
し、急に吉事を見る意、人の助けを得る意、縁談に破れ有りて終りを保  
たす、物を他より貰ふ意身に係はり無き事に氣遣ひの意有り、一念のか  
かる理有り、此は定体有りて見定の難し、故に矢物の類見をすの意とす

器物の力を借りて、功をなす意有り、土、水之詞ひを得て物を生ずるが如く吉、しみ込む意有りて夫婦仲は吉、ねはり付く意、願望待つ所あれども充分に調ひ難し、學術修練の意有り、欠伸の象、世に希なる意あり、裳を掲げて臂をあらはす象、自然と諸人相集る所手に付く支配多き意、遠方の旅行有り、倭人と賢人と有り、男は金銀と住所、女は色情と嫉妬に苦しむ意、色情外に漏れ破れん事を恐るる意有り、角の取れると云ふ意有り。

ト筮音節に曰く、象星<sup>ハカク</sup>北<sup>ニ</sup>之課、水行<sup>ハ</sup>地<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>之象

大によし北東より吉事有り、相談事整ふ、遠方の急ん、金銀の縁より、願望叶ふ、人によく思はれ何事もよけれども少しづつの不足有るべし、住所に付少し苦勞有り、少し病氣の心有り、されどもよし。

のりか、うるしか等使ふて始めねはり有りて合ふ。わざ合せたるか、ひかるか、すさとほるか、びつたりと物に押し付くるか。

古人は尊し遠方の人と心を合はせたるか、終り悪しきかなるべし。

○待人来る事遅し、然れども来るべし、○矢物不足有るべし少しは出る物有り、○願叶ふ、不足あれども北東の人故により、○天気雨か雨あ

るか、○費買とかく損多し。



### 風天小畜

もの凡て成りて又始むる意、勇威内に有りて外に顯はれず忌嫌の意有り、物を乞ひ、物を施す意有り、幕内に隠れ或は窓より覗く意、一同せざる事有り、物事しぶる意、少しく財へる意、手に物を持ち人をまどはす意、正月の意あり。

ト筮音節に曰く、匿藏<sup>ニ</sup>宝<sup>ノ</sup>劍<sup>ノ</sup>之課、密雲不雨<sup>ノ</sup>之象。

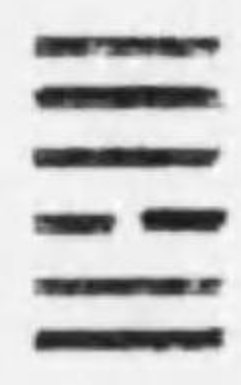
もの事いみきらひ、人の氣嫌苦しみ旅立の意か、又住所の苦勞か、とかく、いやなりと思ふ事有り、胸に一物ふくみたる取なり、又懐へ物を貯はへる卦なり。

中くびれたる物か、しめたるやうなり、糸紐の縁、かたく使ふ物か、ながみ取の物か、口伝。

古人は胸に一物あつて、工國の有りし人か、遠方へ行きたるか、苦しみに逢ふたる人なるべし。

○待人来らず、○矢物出難し、○願望胸に一物有りて願ふとも叶はず。

○天氣曇か雨はふらず、○賈賈いみさらひ有。



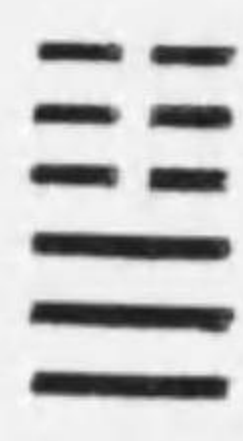
天澤履

此卦危ふむなれば一生安氣ならず、女は妾の頼思ひの外なる果報物にして仕合有り告、男は人を倒し己は奢る、詞と内心は表裏ありて、女にたましぬかれ、耻を受けたる女を愛する事甚し、政に女は彌々高ぶる、子は二三人ありとも一腹にあらず、慎よみ人は意外の立身あり、足に力を入れ重き物を載せたる象、媚を呈して主夫を迷はす意あり、さし足をする意、怪しき意、奥附隠居付杯の意あり、遠国の生れにして孤独の意あり、天に離れて空房様を守る女、又は美貌にして人の心を動かす意あり、ト筮旨節に曰く、如、履ニ虎尾一之課、安中防危之象、

物にはつと驚きあやがみたるか如し、旅立か住所の苦勞甚あれども、なんなく静まるなり、女の裸になりたる象也、文事あり、又りさんたる象なり、あふなく使ふものか破れやすき物か、全ものか、礼にかかりたるものか、履む縁あり、生もの縁、りさんたるもの、又いやなる心有るものか、

のか、外にて使ふものか。

古人は強くたくましく、りきみたるか、旅ありあやうき事に逢ひたるか、裸の縁、引まくり大わらはに有りたるか、あれたるか、  
○待人運あり遅けれども来る、○欠物出難し、○願望禮にか、りたる事あり、○天氣晴れるべし、○賈賈利うすし、



地天泰

忌憚る心なり、怠りの多き意、物の全備したる象破れ近き意とす、雷分何事もなく末吉口伝、婚姻或は兼礼杯の意、人を頼んで自ら手を下さぬ意あり、不忠不孝なる意、年月の數に掛る事有り、高山遠地の意、五畿内の中に出る卦なり、月の始の意、上下の世兄弟の縁あり、思しき事により富貴になりたる意、中人以上にても身土は減る意、

ト筮旨節に曰く、天地交陽之課小往大來之象、  
生れたる徳は良けれども、万事仕合は其れ程に非ず、人の見たる所はよけれども内に苦勞多く金銀に苦しみ住所に苦勞あり、願望ははかばかしからず、様子ばかり、良くして位たをれなるべし、

久しく用ひるか、丸ふくらみ、其性賦しきものを手入れて、よくかた  
したるか、又破れたる時は、木溜に捨てらるものか、又尊きものか、工合良  
きか。

古人は文くわ、争ひか、事をは反さぬか、尊きか、多く歩きたるか、な  
るべし。

○待人遅し。○失物見えかねべし置き忘れたるか、○願望はかくし  
からず。○天氣曇る。○賣買損徳なり宜敷からず。



天地否

不正実にして身を破らす正直却て身を破る意、心に謀ありて人に誇らざ  
る意、一旦は苦めども再び開運する意、運のつたなき人は吟味に逢ふ意  
嫉妬怨念非常の行あり、世に長く言傳ふる事あり、或は笑ひ或は悲むの  
意、入て出難き所をたつて通行せんとする意、暫時の意、色情俄に思ひ  
付く意あり、善惡天に手を打つ意、声を発して笑ひ悦ぶ意あり、

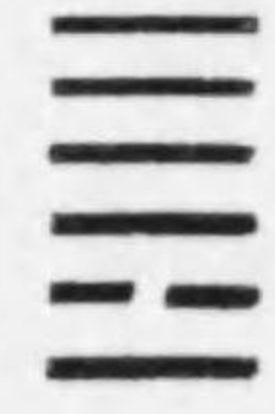
ト策旨節に曰く、天地不交之謀、人口不圖之象、  
四方塞りたる様にして甚だ苦しむ、又目上の人に付てすれ合ふ苦勞、

遠慮有り、然れども末に運開け患あり、例は開くる所を塞きたる様な  
り、終には開け榮ゆる事あり末程よし、

蓋有るか、すばみたるか、すり磨き、押合たるか、工合良きか、花実  
のたぐひか、すゑて置くものか、

古人は目上をくらましたるか、盛り衰へ望みはてざるか、苦しみたる人  
か、又尊くして工風思案を専らにしたるか、相手を求め争ひありし人  
か。

○待人連あり来る少し遅かるべし。○失物出かねる。○願望目上に障  
りあり。○天氣よし。○賣買買に吉賣に悪し。



天火同人

人事に纏有りて今は齊み落付たる意、急ぎ行度意有り、上下無く同等の  
意、万事廣く私なき時は吉也、小人は放蕩に親しむ也、古厝の意、我鳥  
のみを計りて人の鳥にならざる意、此卦脾胃にもつれ有り統じて病身な  
り、初爻交變、いぢりの意、多く所医に出る卦也、出産は女に便る意、あれ  
ば平産に非ず、然れども同人と二人になり遊ヒ心身を安する意、なれば安

産と占ふ事もあり感通によつて生死を定む、三爻交際力を以て治し難し、五爻交気虚物に驚き易く小心なる人にして人の言ひなりになる人、文画に氣を打ち或は幼少の時親に離れ氣兼絶えず爲に発病せしなるべし、一旦全快し、後再発の時治療及はず、離相重なる時は熱氣強し。

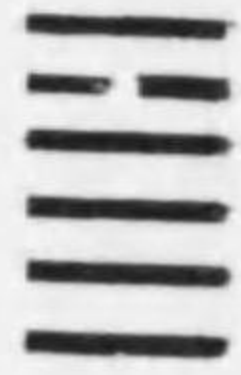
ト筮旨節に曰く、遊魚從水之課、二人分<sup>ッ</sup>金<sup>ッ</sup>之象

大に吉親しき人と、心を合せ善き事をしめし合せ、宜敷調ひ、人に能く思はれ事調ひて吉、とかく初來したる事を変替へせぬと云ふ様なりおんくわにしてよし。

尊き物か、人に親しむ物か、身に付く物か、工合良きか、すり磨ありて見事なるか。

古人は相手有つて事をしめし合せるか、文くわ忠孝共に良き人か、書きのこし言ひ残したる事あるか、遠方へ行などしたるか。

○待人来る、○失物出可し、○願望相手有りて吉、○天氣晴天、○賣買共に利あり、



火天大有

性質取締りなく、物を捨てる事多き意、婦人は他人の介抱に預りて却吉物の危きを氣遣ふ意、表向整ひたるやうにして、内実困窮の意、一芸に秀で衆に勝れたる意有り、待つ意あり慎む時は吉、万人に敬はるる意あり、一陰を主とす佛道の理、祐天僧正の如き類あり、持合ふ意、助け合ふ意あり、人相は目の中の舞やかなる人、甘やかして育つる子の意、足の強き象乞食の類有り、

ト筮旨節に曰く、金玉滿堂之課、大明中天之象

表向人の見つきは良けれども困窮して色々に苦しむ、女の厄介を引受くる困あり、又住所にも氣遣ひ、甚苦勞多し、様子計り良くして、何事も精明かぬるなり、

貴き理、文くわ、物にヒリてへる物か、破れたる時は何の役に立たず速に捨てる物か。

古人は大に尊きか苦勞多し、又末代迄いひ残したる事あるか、目上の爲に苦勞したるか、忠考あるか、事満ざるかなるべし。

○待人来るべし。○矢物出かねる尋べし。○願望叶ふべし。手間取るべし。厄介を引受くる事あるべし。○天氣晴天。○賣買利薄し。



地山謙

慙懃。人媚へつらふ意。敢請の人有りて力となる意。兄か伯父の讓りを受くる意あり。隱謀を企てる意。又は分限を知る故に不法無き意とむとる事あり。其象意に表裏あり事に依つて活断すべし。儉約の意。上下見合す意あり。婦人好色淫犯の象。氣を潜め人の顔色を窺ふ意あり。家産庫藏の意。見敷べる送取買取る意あり。雪隠掃溜杯の意。謙の坤と交するは地面に付ての象あり。謙は恥を顯はす。陰氣の凝りたる意也。怪敷事あらば其所の地面を三四尺も掘りて炭火をたき。陽氣を加ふる時は妖怪自然と止むもの也。又何の形もあらはさず怪しき事ある時は。其家の竈の下の地を三四尺掘りて炭火をたき陽氣を加ふ。食の元なればなり。

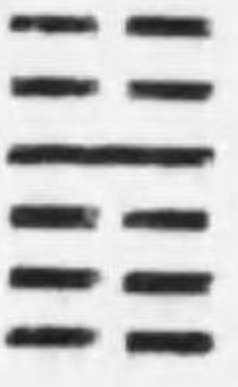
ト筮旨節に曰く、地中有山之謙。抑高就下之象

おりかぐみ目上を敬ふ様なり。氣のね。苦しみ詔ひまはる。然れども

後指になる人有りて力になるべし。後は良し。男子裸の躰の理あり。おりかぐみ、のびる。物を押しすくめたる様なり。音有。細工物か、金物か、草木の縁あり。

古人は位下なるか、争あるか、又高き所より落死たるか、怪しき目に逢ひたるか、芸能ありしか。

○待人選し。○矢物物の中に有る可し尋ね可し。○願望けんたいしてくつらいでよし。後指有願叶ふべし。○天氣曇る。○賣買中なり。



雷地豫

家を順ならず能く故。親の跡を嫌ふ意。小過に通じ自ら困苦を招く意有り。仲間タラシと云ふ意あり。人を恐れ隠るる意。小年は必経事有り。舞臺の象。我侂不忠不孝の者あり。又親を思ひ不孝を悔ゆる意も有り。活断を受す。小人は小盗する意。烟氣の起る象。火災付火の恐れあり。地を拂ふ事。或は汚をぬぐひ去る意有り。故に恥を雪ぎ仇を復するの理とす。手跡は不器用なり。古来より云傳、たる神佛の迎。九海に舟を浮べたる象。飯焚き人の腹。豫の坤は地面に付ての象有り。恥を顯さす

内に包む共に陰氣の凝りたるなり。又夜の意女の取の妖怪有り。

ト筮言節に曰く、鳳凰生誰之謀、萬物終家之象。

物騒がしく暑付難し、住所の苦勞甚有り、事の様子ばかり良くしてと  
け難し、子供を養ひ育て上げる様存り、又地上に雷のおとみ如く也  
少し悦かの理有り。

細かなる物を湖、漆杯にて固め乾かはし、ころける様存り、数有、拍

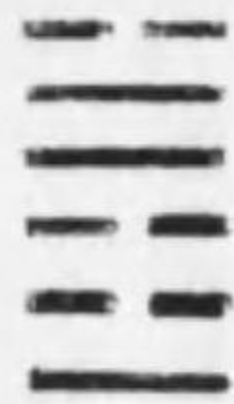
子を取るか、音ひびき地上におとるか、修行あるか貴きか。

古人も石の心なり、坊主の理有、口の縁、醒はねる、修業の理、さと

りか、貴きか、又佛神の縁有るべし。

○待人来るべし、○矢物知れ難し、○領聖人にひふくしてよし叶ふ也

苦勞多し、○天氣晴べし、○賣買共に吉。



澤雷隨

水が車を推さんとも思はず、車に水が推れんとも思はず、自然と果報ある  
象なり、枯木の再び繁茂する如く、もの交りて宜敷き事有り、首を求  
する意、公辺に係る事有り、他より物を貰ひても謝せざる意有り、大量

の徳ある人終りの知れざる意あり、男女共に色情の端あり、住所の事か  
旅行杯の事に付思案をなし居る意有り。

ト筮言節に曰く、良工琢玉之課、如水推車之象

住所交るか番へ度か、遠方の理、生れたる所に住すして、古郷を忌み  
嫌ひ歩く程未吉、歩行されば悪し、目上の人に救はれるなり、當分身  
心定まらぬ所あり。

物について歩くものか、又まはるか、すり磨きふらつくか、ころげる

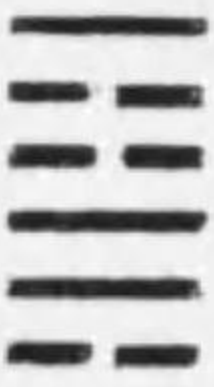
か、遠方より来るものか、細工ものか、古人は方々歩き、巡りたるか

之は日月運行の理なれば行きて飯るをい、むなり、目上の人に付歩く

か、發明なる人か、至極善き人也。

○待人早し、○矢物暗ると出難し、○癡望居所所頼有るか目上の人に

救はるる従ひてよし、○天氣晴天、○賣買賣る理、買に利薄し。



山風蠱

精力を盡し貪ならざる意、争ありとも家を破らざる意、親子の仲に係る  
事多く、或は子孫を思ふ事あり、立身出世する器量ある人、声を発する



意、忠臣義に因つて命を捨る意、仲間喧嘩材智ある故に却て人に隔てらる全体一器量あり、自然と乱れ亦自然と治る意。

ト筮首節に曰く、三蠱食血之課、以悪害善之象。

如みおたまれ、争ひ纏れ、あてくらへ内に悪を含み外へかくし心をして身を苦しめ安からざる心なり。病人は腹の内六ヶ敷事多し、三つの虫を一つ器物に入、血を出しちを食む例へなり。数有る物か、数有る中より引はなしたるか、中うつるか、物を入るるか、文くわ有るものか、古人は争ひ力有るか、物を破るか、豪傑なるか、勢智恵ある可し。○待人遅し、○矢物出難し、○長引くべし口位、○曇天氣もめる、○賣買争あり口位あり。



地澤臨

爰故ありて、人の賞美にあふ意、西方に行く旅、凡て住所の勤く事隨と同じ、金銀の自由になる人、覆ひ隠す意、顯れ難き事の多き意、妾腹の意、待人二人来る、覗く様に見る意、見合をする意、夫婦仲凶、立身せんとする望強し、然れども急なる場に至りて迷ふ心あり。

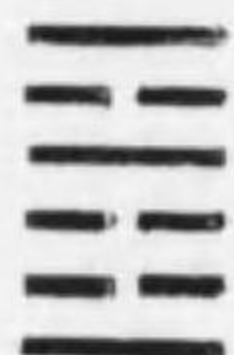
ト筮首節に曰く、團入ニ難羣之課、以臨下ヲ之象

幼少の時憂苦しみ、住所に苦勞し、其れより少しよく、身の二に骨を折り望み事絶えず損事あり、金銀の世話あり、密に色事あり、人知らず堀川通に住む人がとかく望みあり、

少しくほみあり、文どり模様、文くわ、金物か、破れやすきか、一度用ひて捨てる物か、重宝な物か、

古人は大きな事に望かけたるか、住所の苦勞か、高き所より低き所にわざあるか、落たるか死たるなるべし。

○待人来る可し、○矢物めつらしき所に有り、出難し、○願望とかく人の中に立つ理あり、長けぬは叶ふべし、○天氣雨、○賣買見合せてよし。



風地觀

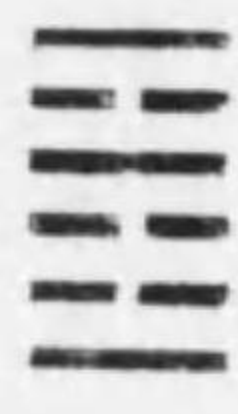
心を以て見る意、臣として君の心を計り前後を窺意あり、飾り立てたます意、無理に引離して取る意、人の賞美にあふ意、貴人の目を忍ぶ意、人を惑はす色情、花見の意眼ぶたの下る象取なり、木の突をちぎる意、

眼に見心に感ずる意、心落付かず堅くしく遠方へ心を通はず意、姦乱にして他の嘲を受け易き意あり、

ト筮音印に曰く、雲捲、晴空之課、落花飛発之象。大風の吹き立つる様にして落付難く住所の苦勞、遠方へ心通ひ目上を忍ぶ苦勞あり、然れども親類を親しき人にとり立てらるゝか終には運開くる事あり口也

見事なるか、高く見る物か、ふら付くか、引くくる糸紐、模様文とりすり磨き、ふくらみ、或は口の縁か、

古人は力有、人に勝れたるか、少り上にまはり有か、難義、苦勞末にあしきか、上を臨す理あり、人に思はれたる人かなるへし、



火雷噬嗑

心に思ひ居る事を言出して良か、言すして止んかと思ひ惱む意有り、物を催促する意、其所に久しく思われざる意、法令を立、刑を用ひる意、

吞込さる事を人に問ふ意、印判文通守取之意、賄賂にて立身する意、人を呼ぶ意、

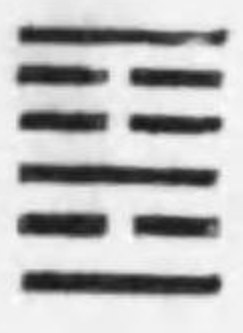
表面は剛に見ゆれど、とやかくと物案じ居る意、時々我より上たる人に付て口舌氣遣ある意、弟子又は子に縁なき理有り、

ト筮音印に曰く、日中鳥、市之課、願中有、物之象。

腹立ち怒る心あり、胸に思ひつつ言ひ出さんとする心あり、言ひ出して良し、和合する也、凡て物静かならず堅しく落付難く物の引懸りたる様にて時明き兼ねる也

上下より合せたる様なり、ふらつくか、ひらつくか、物を入るる物か、引かけるか、廣げるか、並べるか、古人は怒る面体か、ぶり物杯したるか、勢あるかなるべし。

○待人来るべし、○欠物出づ可し、○積差叶ふべし、但し一旦の事至極よく勢ありてよし、木とけず最も両方の爲になる事類なるべし、○天氣晴天、○賣買賣により買にもよし、



山火贲

水雷噬嗑

親子の仲の大ケ敷意、他人の内兄弟の如く親しき人あり、怒て勝を張り力を出す意、対面せんと思ひ致郷に廻る意家に付く女の怒あり、人の物を我物にする意、女が男を侮どり又女が男を慕ひ二度目の意あり、子が母より離されたる意、つながれたる意、下地のある上へ塗り付る意、親至は始の望は人に辱はれ二度目にて斯く成る意、失物は擇び取り木の杖に立つる意、智勇の大將一旅の祖師の意あり。

ト至旨節に曰く 猛虎負<sup>カ</sup>嶋<sup>カ</sup>之課

解に曰く嶋は山の曲つた處山の

光明通茶之象

くま一方に割據して優勢な事の磨

心にはげみ有、古き物を新しく拵えなほしたる心あり、願のぞみあり立身出世見え渡る様にて産し、然し功つみてよし、住所の苦勞あり、又引込み度心あり、人に負けしと思ふて飾りきらめかす事あり、又大に偽るなり心改べし。

とり飾り見事なるか、模様色どる、つまみあるか、ぶちまだらの模様か、又白さか丈夫なるものか、文くわ、引かけるか、引たてるか、かかふか、たむか、飾る物か。

古人は勢強し、文くわ、身を飾りたるか、力有るか徳有るか。

○待人来らず、○失物出難し、○願望偽り、とり飾り多し然し丈夫なる事なり、○天氣晴天、○賣買又天なるもそんなり改む可し。



山地剥

女五人集りて相談する如く、はか行かす評議計りにてはつる意、色情の楷あり、枯木に花の咲く心にて新規に物を始めるによし、女の男をせり立てる意、貧家風雨の憂有り、飾り落ちて下地の顯はるる意、白髪のは人瘦せたる象、丈高き象、裳をかかふる象、身軽さ出立、探げる、つまむ改むる意、刀剣の類古刀にて瘦せたる象、名物の意、心小にして望は大なる人。

ト至旨節に曰く 去<sup>レ</sup>舊<sup>レ</sup>生<sup>レ</sup>新<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>課 群陰剥<sup>レ</sup>盡<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>象、

昇りつめ、はさ盡して落る様なり、危し、慎み思しき人は落つる、又我一人上に立て大勢を養ふ理も有り、又大勢を従へ物を敵へ下知する意あり、立ぶりに落ると云ふ理有り。

引立てる物、模様文どり、うつろか、さし上げる理、丸ふくらみ、細なる物を寄せ集のたるか、物の上に乗りたるか、高き理、ひらき、た

たむか、積重ねるか、古人は大勢の類か、坊主か、脊高きか、勇有るか、ほねを折りたる人か、終り悪しきかなるべし。  
○待人来るべし、○失物出難し、○願望はきつくしてよし、なまなかの事にて悪しし、○天氣曇、○費買賣にも買にも悪し。



地雷復

總じて判究、特に婦人に、智あり、初凶、中吉、終大吉、遠方より恵を受くる意、人に預けたる金銀を案する意、善悪の界吉の類あり、取散らすの意、小にして目立つ意、潮の晴を考ふる意、目利の意、自分に何物も無くして他人の懐を需にする意、市中に金を盗む意、夜の意、子の刻也、全身に氣の廢る意、此卦若年より元後まで吉なれども分別大事なり、崩る事多き意。

ト筮首節に曰く、淘沙見金之課 反覆往來之象  
往來の人有り、住所の苦勞あり、行きて又もどり飯る理あり、又おこりさめあり、又思案定まらぬ事あり、願ひは良けれども、障り衰へあり、金銀を持歩く事あり、開きすばみ有るか、往來に用ひるみ、ひら

つくか、ふらつくか、せつあるものか、動くか持つ所有るか、遠方より来るものか。

古人は住所定まらず、名所方々ことごとく歩きたるなるべし。  
○待人来る、○失物出づべし、○願望初の思案にもどるべし、長引くか遅し、○天氣雨か曇、○費買うりに少し利あり。



天雷无妄

親に孝心の人、正直の意、物に古例有りて調ひ難き意、過去現在未来の意、奇麗好きなる人、窮屈の意、威勢ありとす、伯父叔母の有る意、先祖に由諸ある人、慈心の無き意、危ふむ意、人の爲になり我爲にはならざる意、追かける意あり、思ひ寄らぬ意、主人は健にして家臣に病人有りとする、秘説に云ふ、乾は生ふの金にして重く堅きを主とす、震も長木にして堅く、春木の意、上の金より尅するなり巽は夏木の枝葉盛なる象、盛なる時は風の爲に破れ易し、冬は枝葉枯て幹独り強し、之无妄は主人健にして家臣病の意なりと云ふ。

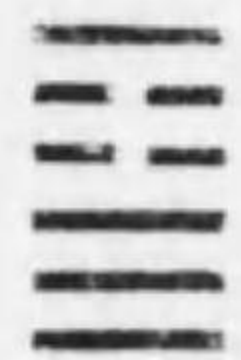
ト筮首節に曰く、石中益王之課 中舊安常之象

甚若しみ驚き有り、危ぶみたる象なり、然れども何事かなし、病は藥を興ふる勿れ也。されども天災の卦なれば心身落付かず住所か旅立か恐れ甚しくして全銀の苦勞あり。

あぶなき理、ふらつくか、ひらつくか、又金ものか、丸長さか、費き物か、或は伸縮の有る物か、自然と出来たるか。

古人は天災の理、するどに終り思しきか、危き事に逢ひしか、勢強き人かなるべし。

○待人少し道かるべし、来る。○失物置あすれたるか出へし。○願望人に頼みて吉。○天氣よし。○賣買始利あらぬ様なれども後利有る可し。



山天大畜

其家の主たる者死し、其子家を再興するの望有り、女は大膽者にして他人の言ふ事を聞かず、訟の卦と同じ、贖物の意、蛇の類、生類を好む人あり、怪物天災の巻、夫婦仲凶し、無理なる遊樂の意、子孫無き意、年限り月限りの意、此卦集るに清法有り、智と愚との二つあり、悪人は大酒を呑み面目を失ふか或は色情深し、男は女に恨あり、女は男を欺き

遊る、又養子に行き或は養子を以て家を継ぐ事有り、養父母の處一人は必心思しき者なりと云ふ。

ト筮音節に曰く 龍潛大壑之課 積小成大之象

忌嫌ひあり、人の心妬み、全銀の苦勞あり、文事少し有るか、住所安からず、少し病氣にしゃく有り、甚苦勞胸にせまる事あり。

固まりたるか、数有るものか、よろさか、金物か、内に物を入るるか、貴き物か、大用あるものか、包みてたしなみ置く物か。

古人は胸に大なるたしみあり、遠方へ行たるか、坊主か、住所定かならぬか、徳有るかかなるべし。

○待人来る事遅し、忌嫌ひあり。○失物悔事の理有り出泉るなり。○願望胸に一物有りて頼ふ儀、忌嫌ひありて叶ひ難し。○天氣曇。○賣買忌嫌ひあり。



山雷頤

包みて突を頭はさぬ意、貴人より声を掛けて救はるる意、利慾の色情、衣類、食物甘き味を忘れぬ意あり、上下呼び応するの意なり、日数の有

る意、跡に心の残る意、他に漏さぬ密計あり、互に疑ひあふ意とす、捲  
天、午車、船舶の意、関所の象、一味連判の意、願望金銀を入るれば親  
ふ意、口故に怪我過ちのある意、仙郎桃園に遊ぶの類。

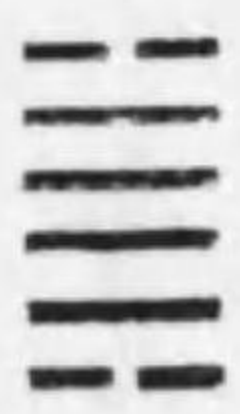
ト筮首節に曰く、龍德隠靜之象、遷善去惡之象。

内にふくしたる色事あり、親類か親しき者を憐み養ふ事あり、目下の  
者に意見杯いひ度き心もあり、少し怒る事あり、いい破る時は事調ふ  
可し。

内に物を包みたるか、やしないにつく故食物か、食ひ物に付く道具か  
己を顧ふなれば家業につくか、よくく心の働きあるべし。

古人は大勢一面いの内に入りたるか、智略をめぐらし養ふか、遠方へ  
行きたるか、文くわ、名人か、又大悪人かなるべし。

○待人聚る可し、○失物内に有、○願望長引く可し、内にふくしたる  
事を言ひ出してよし、○元氣曇るべし、○賣買中吉。



澤風大過

忘恩の理あり、若き時は辛苦にせめらるる意、自滅の意柔和なれば先の

果報あり、姦欲狂乱油断の象あり、池川の辺に仇人あるか、教役の企を  
する意あり、僧徒京家の人、女が男に物の指揮する意、百事柔和従順な  
れば吉、然らざれば大凶、血判起證文の類、先祖の舊悪、病難異変あり、  
心計り先走りて案じ過し無理やりに事をなさんとする意あり。

ト筮首節に曰く、寒木生花之課、本末俱弱之象。

心をもつて身を苦しむ、物に悔するか、了簡速ひ同速ひ、むぢれ、す  
ぢれ、落着かどる苦勞多し、本末俱に弱し、又出家長袖の類に出る色  
事有、争ちかひ皆同速の理也。

了簡速ひのもの故横に口有るか、異風なるか、中うつろか、糸紐、ひ  
ひき有るか、貴さか。

古人は坊主か、長袖か、人を救すか救されるか、同速に逢ふか、かは  
りものか、美人か、又すぐれて良き人の常に無き大事をなしたるか  
な  
るべし

○待人同速ひ、○失物出兼る、同速の理あり、○願望萬事自滅の心あ  
り、無理をする心あり、○天氣雨、○賣買了簡速、又は同速にて獲徳あ  
り。



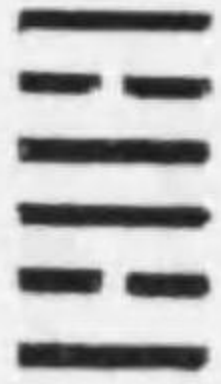
坎 爲 水

上卦に坎を得れば、見つ見らるるなり、下に得るは後姿見にくき者なりと云ふ、歩行ふり悪し、足に云ひ分有り、坎と変する時は動物其他皆此理あり考ふ可し、遊女の麻姿容を抱く象、地名は人を招き止む悪所の類とす活断すべし、外鈍く内大に發明邪智あり、酒乱色欲あり、愛し好む處より物の破れを取る意、我人を崩するか、人又我を崩すか一世の内に類難あり。

ト筮音節に曰く、船涉重難之課、外虚中実之象。

水の流れ定まらぬ様なり、まづ浪人者に出つる、又浪人目前の心持あり、諸事不仕合にて思案定らず憂ひ勝なり、邪智邪氣の心持有るべし、数有るものか、押し止むか、しん有るか、丸長さか、火氣あるか、締くくりあるか、すり磨あるか、金物か、古人は相手取りたる事あるか、又智をふくみたるか、文くわ、今に至る迄言ひ然したる事あるか、然し邪氣に心をつくべし、凡て坎はせんごくの人なり、横に引たつとわたる取也、争ひ終り悪しし。

○待人来らず、○失物出難し、○願望妨げあり、○天氣雨晝より晴るる事も有り、○賣買共に利うすし。



離 爲 火

利根発明にし分別思慮早き意有り、眼悪しき意有り、一度は必ず他国へ出づる理あり、夫婦仲凶、待人の心は急げとも押ゆる人有り、故に遅し之は若き人なるべし、文書類の義につき思案して居る意、短慮なる人、漢天獵師の意台所向きに係る意、四十歳位より後吉の卦なり、物事飾り立て実少なき意。

ト筮音節に曰く、飛禽遇細之課、大明中天之象。

親しき者に離れ、住所に迷ひ、他人の氣兼不仕合なり、思案定まらず少し争の心あり、短氣なり、身のこしらへ表向飾り度心あり、苦勞絶えず、物はなれ悪しき事多し、水氣ある物か、火氣か、對するか、敷あるか、見事か飾るか、文くわ、かげのうつるか、物を入れるか、磨くか、破れ易さか、養につくか、

古人は文華名を顯はしたるか、甚き遺したるか、争あり、住所離れ方々歩きたるか、事果こさるか、終り悪しきか。  
○待人少し障りあれ共来る。○欠物出難し。○願望當て見たり載べて見たり、骨折りても障り多し遠方へ心遣ふか。○天氣晴天。○賣買見くらべ有可し。

澤山咸

正直なる人、病身なる人、心に響き感涙を催す意故に病人には凶なり症には吉占、生別の意有り、己は善び子孫は喜はざるの意、色情已れ一人の樂を極むる意、至極美婦人の意、男は縁談の話を嫌ふ意、見ると其事が爲して見度き意、此方より教ふる理あり母に別れ居る意、百事未だ決定せざる前に出る卦なり。

ト筮首節に曰く、山澤通氣之課、至誠感神之象

男の方より慕はるる也、すしよく誠有、未長り又隔たる所に住む女の方より心加ふる事あり總て人に能く思はるるなり、後楡ありて大によし、人に感じ譽めらるる也。

貴きもの、よき物、奪ひびき、見事なるか、口の縁有る物か、エへ貴き所有。

古人は貴く、遠方へ心通ひ、女の縁あり、歌人か、譽られたるか、名を残したるか、又隔たる所へ心かよふか、柔かなる人なるべし。

○待人来る少遅し。○欠物出べし。○願望他より吉事を告来りて大吉。又婦人には苦勞あり、天氣雨降りて晴る。○賣買何れもよし。

雷風恒

朝か晩か五の數有、引次勤定の意損有、舊借を償ふ意、医に藥札を送る意、一年切の意、時刻を見合せる意、名高く世に聞ゆる意あり、無念の意、好む道に凝り固まり急に苦勞する事あり、家事の苦勞あり、老の果報は自然にして天道の憐れみ有る卦なり。

ト筮首節に曰く、日月長明之課、四時不忒之象

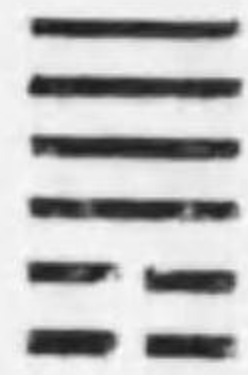
催し久しき理あり、心身穩かならず、住所の苦勞あり、小人は悪を以てつねとす、大人は善を以て恒とす、然るに依って當時の人は色事、酒興に耽り心定まる事無し。



つねに入用の理、久しく用ゆる理、糸紐、ひらつくか金物か、いき物の縁有るか。

古人は長壽か、目出度か、祝ひ悦ぶか、遠方へ行たるか、又住所定まらぬか。久しくねりたる事有るか、終りに口伝あり。

○待人遅し。○失物置忘れたるか尋ねべし。○願望手間取るべし末に叶ふ。○天氣日和。○賣買小吉なり。



天山遊

親しき人に内邊を窺るる意、外道に忌すとんた望有る人長短の理あり、山は高けれども天に及ざる也。再縁に告占氣若と言ふ意あり、居所を急に退き去る意、貴人の前に平伏する意、肩に物をかけたるの象あり、世に顯さる樂み或は密事あり、怨み妬みを受くる意、住所に縁なく若き時より故郷を離れる事多き理あり、田地か家に付て口論をする事有り。

ト筮旨節に曰く、豹隱南山之課、遷善遠惡之象。

住所の苦分甚しく、若き時苦しみ多くして、たまく、吉事有りてもはづれたたり、間違ひたり、思案落付難し、苦勞多く或は身を退くか、進

む事なり難し、又は避る、かなるべし。

九角たちたる物か模様あるべし、つまみ上げる理、磨きたるか、ころげるか、籠て置く物か、長き物か、古き物なるべし。

古人は一度住所を退けかくれたるか、又方々歩きたるか憂苦勞苦しみ山水の辺に身をかくしあらはれ終り思しきか大に心を勞したる人か。

○待人遅し。○失物出難し。○願望叶ひ難し。○天氣風なるべし。○賣買うるに良し買に悪しし。



雷天大壯

先祖の格を取次ふ意、家名を二つにする上意勅許の類の事あり、追剥の意、少き物の大用を爲す一步小判の類陽の進む卦なればわて吉、短慮にして艱難に遇ふ意、目上の人より非道なる事言はれて憂賑難する事あり、主人は度々替り其内若主君なれば氣に入り易く、尤君なれば合ひ難し、心中甚物思ひ有る意。

ト筮旨節に曰く、先逆後順之課、羝羊触藩之象。

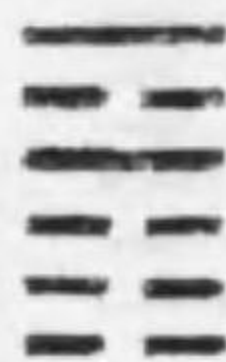
身の上苦勞どうなるやら知れぬと云ふ程なり、むりなものを甚思ひ、

親類に合力するか、人に義理つくりてものを貸すか、長袖か、又医者  
の縁有り、懸事引掛りたる様にてすみ兼ねる也。

おり曲りたるか、引かりたるか、糸紐、ひらつくか、全物か、つきあ  
てるか、すくふ物か。

古人は名を出し犬なる事をしたるか、大勢を救ひ助け杯したるか、博  
くして苦勞多きかなるべし。

○待人遅し、但途中迄来る。○矢物出兼る。○願望引掛りてすみ兼ね  
也。○賣買、利いづれより小うすし。



火 地 晋

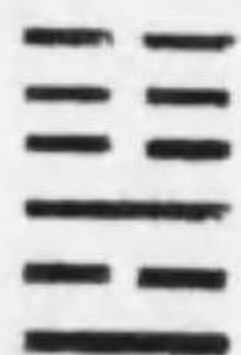
父子の内死際思しさを心に掛ける意、女のすすめに困って事を究する意、  
難を前とし足下を見ざる意、百事道を踏んで進めば吉、物の師表せを照  
らす徳ある人、武術修行の意、男女共に芸能のある意、首に充介あり、  
主人二人の意、親の仕損しを子の見て居る意もあり、中絶の人と相見て  
親しくなる事あり、夫婦仲至つて宜敷却て早く別れる意あり。  
ト筮音節に曰く、龍叙出、雷之課、以臣遇、君之象。

物を見かけて、しきりに進む、立身事、住所裏より表へ出る様に心改  
むべし、火に進みてよし、凡てする事に進むなり、女にせり立らるる  
事あり。

物を破るか破らるるか、出したり入りたり、火氣の縁有り、ほり難か  
したるか、細なる物を集めたるか、固めたるか、丸ふくらみ、けたな  
るか。

古人は勢するどにして終りあしまか、ものを破りたるか衆の外力強き  
人か、血氣にはやりたるか、浮沈み又事改めたるか、文くわ有るかな  
るべし。

○待人来る可し。○矢物早ければ出つる遅ければ出でず、○願望進む  
に宜し。○天氣宜し。○賣買早ければよし遅ければ凶。



地 火 明 夷

溫和にして發明なる人、時に合はず食乏なる意、難の中女下に有り、火  
生土と上を養ふ色欲の災有り、心を改め善に務る、一度破れて後告、三  
四年以前大凶、羅網の中に在が如く動き難き意、夜明の象又日入の意、

闇夜に火を見るの意、五爻家大破有り、食事の乏しき意、性質は吉、智を賣る商賣あり、指を折る筆致の理、暗所に目を用ひ覗く意、古き事を引く意、狹ると云ふ意有り、瓶をまねる意、母に便る女の意、

ト筮音節に曰く、鳳皇垂翼之象、出明入暗之象

目上の人の氣を兼、艱難多く苦しみを経て、目上の人の世話林有りて終に運開くる、又芸能學び立身するもあり、文王の仰うりに囚れ牢に入り、一旦運開かれたるが如く心得べし、一度破れたると云ふに心を付

けべし。

若しき理なれば焼たるものか、飾りくくり、破れ易さか、丸ふくらみ、とりかざる物か、すゑて置く物か、中うつろか、口の縁、

古人は囚れとなりて苦しき運開き又終り思しきか、破れあるか、破るかよく見合すべし。

○待人遅く来る、○矢物遅く出べし、○願望ものを破りて願叶ふ、然ともいたる事遅かるべし、○天氣曇、○賣買見合せてよし。



風火家人

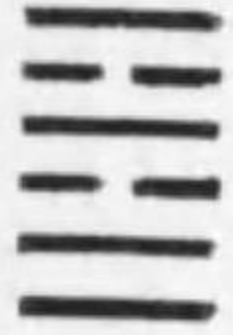
物事始めより後こそよく宜敷なる意、慈悲を表とせざれば危き事多し、婦人は懐胎か心に燃立つ程に物思ふ理あり、風前の燈の如く上に袋を覆はねば吹滅る心有り、他のすすめに依り事を発する意、勝手方女中若殿附杯と云ふ意、親類疎遠の意あり、明輩同士の意、大勢を相手にする意、家内親しき者に付て心遣ひある意。

ト筮音節に曰く、入海求珠之課、開花結子之象。

其家に人の噂りへり有るか、但し女に付て苦勞有るか、色事か、物を求め度心あるか、願ひ望みあるか、手回取りて叶ふ可し、凡て世話有り、全銀の苦勞多し。

家に無くてならぬ物か、朝夕に使ふものか、人の助けになるものか、色どり模様、家の飾りとなるか、重宝なる物か、

古人は時を待ちたるか、忠孝有りしか、ものをねらいたるか、歌人か、○待人来る、○矢物出つ可し、○願望親しくして願ひ叶ふへし、苦勞甚多し、○天氣晴天、○賣買共に宜し。



火澤睽

火澤睽

女にたらざる意、邪淫の女の意、短氣短慮の意、縁に云ひ分有るか災害を受くる意、夫婦同姓多く離別の理あり、人の言ふ事耳に障り氣を廻し案じ過す意有り、人の噂にかかると意、一過流行の意、大好卷の金並れ他へ漏さずと云ふ意、能く人の機嫌を取る意、最先の智恵の意。

ト筮旨節に曰く 猛虎陷解之課 二女同居之象

色情あり女二人わる争ひ妬み同遠ひ不遠げす、たましすかし中悪しく苦勞腹立する理也、全銀の苦勞物入あり、人体使す顔つき異風か、見にくさか、色どりこしらへるか、常の様になし。物をこなすのか、入るか、こぼれるか、口に縁有るか、細工物か。

古人は面相あれたるか、こわらしさか、力あるか、物を破るか、女に苦しむか、同遠にて苦勞したる入なるかなる可し。

○待人來らず、○矢物出す、○願望叶ひ難し目上に障り多し、見取べありて調はざるなり、○天氣少し計り降る事あるか、○賣買共に悪し。



水山蹇

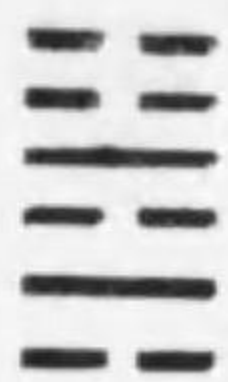
分別ある人、坊主の縁あり、守札杯の意、足なへ故に人を呼ぶ意、父母の中にかけあり、どうも仕にくいと云ふ意、氣の多き人全銀をほしがる意、長病貧乏の病あり、生家を持横じ、他家に住する意あり、又家に付口論杯すること有る意、心ばかり先へ進み物を持かね、疑ひ迷ふ事あり柔和ならず、怒恨む事ある意。

ト筮旨節に曰く 飛雁啣蓋之課 背明向暗之象

足なへ備むと云ふ心なり、萬事心に備み苦しみ心に任せぬ事多し、晴れぬ天氣を見る様なり。

引くくる物か、すゑて置くもの足なき様なり、締くくり、丸かどあるか、細工物か、穴あるか、古人は力あるか、苦勞難儀に逢ひたるか、終りの悲しさか、坊主か、苦しみたるか、争ひあか、なるべし。

○待人來る事遅し、○矢物遠くへ行かず尋ねべし出づる、○願望慎みてよし、ひかへ目にして良し叶ふ事遅かるべし、○天氣曇る可し雨か、○賣買慎みてよし。



雷水解

家業をおろそかにする意、若き人、親の苦勞になる意、子孫に疵の付く意あり、居所を替へ度意、夫婦安泰ならざる意、争論裁判の意、色情あり、遊女の意、笑ふ象、住所は川辺にあるか又は古墓の祓あるか、附近に至極仲悪しき人あり其鳥に災難にあふ意もあり、好き子美妻の意あり、女人懐胎の意あり、

ト筮音節に曰く、春雷行、雨之課、夏散生、吾之象

思案定まらず住所の苦勞旅立様子よければも然らず打とせ、ぐつたりしたる様なり、色事あり、よく調ふなり、

正合よく、締くくり、さしこむか、又解ほぐし、巻たをむか、引掛けるか、水氣あるか、数あるか、又並べるか、たるんたものか、横にわたる物か、

古人は遠方へ歩き廻りて、憂難難にあひ住所定のす末に思しき事あるか柔なる人、大出あるか、時に合はざるかなるべし、

山澤損

物事調ひそうにして損失ある意、貪乏人は却つて吉、精強ければ事叶ふ然

充分に無き意、減する事は多く増す事は少なき意、主君長上の命に従へば果報ある卦也、遠方へ心の通ふ理あり、世を忍び人目を包む心持あり、貴人は虚妄あり、中分以下の人は却つて災あり、怒りと怨の爲に身を破る意、幼少にて親に離るる意、

ト筮音節に曰く、鑿石見玉之課、淫上成山之象、

兄弟の縁あり、世話苦勞するなり、然て義理づくの物入多し、物を損しそこねるなればあまり良からず然れども損は益する所有り、

物の損し欠ける処あり、取せうへる物あるか、使ひやり食ひべりあるか、取破れ損する物か、益する所あり、ひひきあるか、つまみ、模様、色とり、すべらかなる物か、

古人は目上に親しく苦勞難儀忠孝あるか、同格の者と親しく誠有るか、なるべし、

○待人遅し、○出難し時経て出づる事もあるべし、○顔堂始叶はぬ様にして末よし、○天氣雨を催すべし、○賣買小吉。

風雷益

風雷益

損失苦勞あり、身も心も静かならざる意、老後は道山遊宴多く栄花ある意、貴人に出逢ふ程良事あり、心中虚にして心定まらず彼も是もと云ふ如く取とのなき事に苦勞する意、人の胸を積る意、親類の手を離れざる意、香の強き水類。

ト筮旨節に曰く、

鴻鵠遇風之裸

雁の大なるもの、水鳥の一

滴水添河之象

大なるものを云ふ

往所の苦勞旅立か、行度き所有るか、行けは理有り、或は人を待つか、心身共に定まらず、人に隠して苦勞あり、金銀の事に苦しむか、又身の程心もとなきと思ふか、良からざる方なり。

ひらつくか、ふらつくか、積み重ねるか、破れるか、敬れ易さか、内外共に使ふ物か、

古人はものの破れを見たる人か、終り思しきか、遠方へ歩き送りたるなるべし。

○待人来る少し遅し、○矢物出兼る、○願望苦勞して充分にない難かるべし、○天気風なるべし、○賈買損多し、

澤天夫

物事堪忍して精氣あれば老の果報ある意、是非を公義にて決断せんと忍ぶ心あり、庶子に生れても家を嗣ぐ意然ども家に付て災難に逢ふ意、女子は子縁薄さか惣領の子を失ふ意も有り、家に付て口論する事あり、妨主の縁あり滝の如き象。

ト筮旨節に曰く、

神劍斬蚊之課

蚊みづち籠の類で四足を具へ

先損後益之象

よく大水をおこすと云ふ

生れたる位は良しと雖も、他人の氣兼、苦勞、遠慮深く胸の内入に隠して、氣のはり大に有り、人を疑ひ妬む心あり、旅立あり、思案定まらず、願ひ望み叶ひ兼苦しみ多し、切きさむ縁、すり磨き、細工こまかなるか、食物か、金物か、口あるか、極たるものか、古人は軍杯ありしか、切りつ又切られつ杯せしか、物を又搜し極めたる人か。

○待人遅かる可し、○矢物引かかりて出兼る可し、○願望ものをけつして搜せざるなり、○天気雨、○賈買利うすかるべし。

天 風 姤

人を疑ひ、我も疑はるる意あり。上通て崩れか、る意。有智の人は家を  
損し、愚なる人は却て家を興す意。思慮なき理、大切なる人の出奔或は  
死するの意あり、女の貴人の下に苦しむ、御小姓林勤むる意、口を下に  
回けて密談の象、近所に明き屋鋪あり、女内にあり、嫉妬より鬼怪となる  
の意象あり、家来大勢使ふ人、陽中の一陰にして、婚姻あり其吉凶には  
女壯なるの家宜しからず。

ト筮首節に曰く、風雲相濟之課 君臣会合之象。

女一人にて男五人に對して争ふ事と知るへし、色事の縁あり、怒り静  
まる事有り、腹立争ひ取り定めなし女に付苦勞、物の定まりなし、全  
銀に大に苦しむ、目上の人とすれ合あり、心身定まり難し。

丸長き理、先を使ふか、先ほそきか、糸紐の縁、締めくくるか、費ま  
か、使ひへり有るか、高く使ふか、又はあたり合ふ物か。

古人は争ひ、女の縁化性のもの有り、けしからぬ取のものか、大に苦  
勞、心勞して終り思しきか、強過ぎたるか、方々と駆け廻りたるなる

可し。

○待人遅く来る可し、失物東南に出て取らぬ也。○願望争ひ叶はず。

○天氣曇風。○賣買賣に吉買に思し。

澤 地 萃

此所彼所と住所を定めざれば危き事あり、住所を定めて一ヶ所に居れば  
走ひて果報の有る卦なり、食物に付富貴の相ある意、所持の田畠に井の  
ある象、中絶えたる人に会ひて親しくする事有る意、貴人と下々と寄り  
合ふて賑やかなる意、博奕の卦故に人影を恐るる意有り、出奔の意、自  
ら家内の物を盗む意、他の家の衰へたるを取立つる意。

ト筮首節に曰く、魚龍会聚之課 如水就下之象。

我がすき好む事あり、諸勝負事すくか、酒肴すくか、賑なる事をすく  
か、又は心黙しきか、利徳にはまるか住所の苦勞有り、人出入多く賦  
しき体なり口傳あり、幾有るものか、口の縁、ふくらみ、金物か、細  
工物か、うつろか、柔なる物か、内のくらき物か、文くわ、集めたる  
物か。

古人は人集めたるか、賑かなる所に住たるか、口にわざあるか、安す  
安すと歩きたるかなるべし。

○待人来る、○失物遅ければ出ず、○願望正しかりずして願かなはず  
○天気雨か曇か、○賣買利あり。



地 風 升

家來の騒がしき家なり、地と風との故に大小見合せの意、親死して不自  
由なる意、同格の者に立身される意、人を頼にして却て難義する意、物  
事に心労多く暫くも安氣ならぬ意、婦人は流産する事あり、又男に付て  
口論し家を出つる事もあり、財宝に付て口論ある意。

ト筮首節に曰く、聖鳥翱翔之課、顯達光明之象

心身騒がしく少し争ひ、又住所の苦勞、願望様子よけれども叶ひ難し  
後、は立身出世あり、大に骨折有り、あけおろし有るもの、糸紐の  
縁、細工物か、忙はしく使ふ物か、大小見合せの物か。

古人は下より昇りたるか、苦勞又難義したるか、望を遂げ兼たるか、  
方々歩きたるか、工風思案の理、木の育ちて高き如く、そろく、と積

一上る事をなしたるかなる可し。

○有人来る可し、○失物骨折りて漸く出べし、○願望様子計りよくし  
て叶ひ難し、○天気曇か風か、○賣買夫に骨折りて、後利有る可し。



澤 水 困

上根の人は是非事を遂げんとす、小人不法の行多し始終此處に居間しきと  
思ふ意、防ぎ守る意、物を賣拂ひ度意、後家の象、困みを忍んでなし遂  
ける者あり、或は遂げざるを以て困の甚しきあり、妻縁昏る如は苦勞す  
るか死別することあり、子縁亦薄く苦勞子あらは貪乏なる可し、頭に云  
ひ分ある卦也。

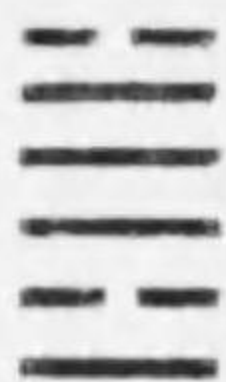
ト筮首節に曰く、河中無水之課、守己待時之象

大に困窮の卦なり、事かけ苦勞し金銀につまり、氣つめ、骨折り、万  
事心に任せず、河中に水なき譬喩にして萬事に付不自由なり、少し色  
事の意有、思案定まらず願望叶はず、締くくり有可き物の無か、相争  
あるものに見はなされて居るか、  
うつろか、大氣にて破らるる物か、包まれて有か、具足する物に事を



欠くか。

○待人遅かる可し。○矢物見明難し。○願望絶えて成らず求て不調。  
○天晴れる。○賣買時節を待ては少利有り。



澤火革

財宝手に入り、富貴の意あり、根氣よく搦出せば何事にも通達する意、  
女人は二心有る意、言葉を究する事に付工風をなし居る意、争ひあれど  
も後には宜し、貨物の意、二階に上る意、右郷へ行きたがる意、別れた女  
あり、親の悔り又嫌ふ意、

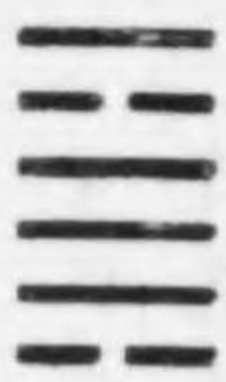
ト筮言筮に曰く、約交為虎之課、改舊從新之象

事を改め又模様を交る事ありて吉、争ひ、女事、色事あり、かつれ大  
ケ敷、身の上に気遣ひ苦勞あれどもすりぬけ、事改りて立身出世して  
萬づ宜し、

物を改めなすか、音ひひき有か、手を入れてこしらへたるか、しめ  
るか、見事なるか、あらたなるか、細工物か、二人でこしらへるか、  
もやうを交るものか。

古人は争ひ文くわ物あらためたるか、勢高き人か、隠れたるか又出た  
るか、こと／＼く浮沈ありしか、威勢強き人かなるべし、

○待人来る。○失物出難し。願望家一度衰へ、再度興る事あり、万事  
占を改て新しきに随つて万吉。○天氣移り交り不定。○賣買改りて吉、



火風鼎

人を養育し出入の者の多き意、隠す事はあらはるる意、目工の人の少し  
障あり、されども後には宜し、根氣強く奇麗なる事を好む意、万事に器  
用なる意、子として親の苦勞になり、後他の厄介に成りて身を困める意  
主父の類、全銀分け取の意、財宝に付人と口論する意、彼に負けし此に  
劣らしと力み氣を付ける意、縁談に纏ある意、

ト筮言筮に曰く、調和鼎鼎之課、去故取新之象

所帯むき一切に出る、又證文書付事収ふみ、金子事かなえの卦なれば  
争事、物の改まる事、又は物の極まる事あり、

かなえなれば鍋釜、うつろなるか、金物か、おしかたか、文くわ、物  
を極め改むる物か、重き物か、火氣、水氣あるか、すゑて置く動かぬ

物の。

古人は力有るか、争あるか、又文くわ院宣本書杯抱きたる人か、重宝なる人か、下として上を犯したるか。

○待人来る少し遅し。○矢物出づ可し。○願望所帯向に付く願なり。もの極まる可し。天氣晴天。○賈買宜し。



雷 為 雷

女が男の真似をする意。三都の人には昔にして辺鄙の人には凶。雷は冬蟄居して寒氣にとぢめらる故に傷寒多し又氣鬱乱心占的也。半虐半実の脈あり或は例を引きて病も。ニ又交死せず。兌となり少し不足なれども道員揃ひたる也。又女は經行不順にして二三月月滞りたりとも妊娠に非ず氣鬱苦勞より出たり。四又交腹と腫って往來すれば乱心なる可し。凡て冬病をうけ春にかりて発する事多し。又八純の外へ乾鳥天、兌鳥澤、離鳥火、雷鳥雷、巽鳥風、坎鳥水、艮鳥山、坤鳥地は多く男根のかたむく事あり。又傳死病出づる事あり。肩脊の引つり痛む事あり。又交長病六日月に死するの類。両親の事。或は家を治むる事に甚氣骨を折

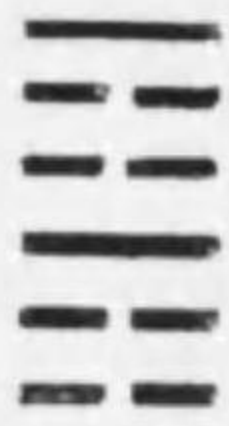
たる處より出る病なり然れども突じたる程になり、全快す可し、又懐妊か否かを問ふに、重震故木を比和して其勢盛なり、然れども啞啞となれば子孫の事なし。木盛にして脾胃の土を尅す其脾胃より出たる病なり。ト空首師に曰く、震驚百里之課、有聲無形之象

驚き危ぶみ忙がしく噪りき心なり、声有りて形無しと心得可し、震普請、修覆は損事杯の心あり、大勢に敬まはれる事あり、歩くか、住所の苦勞多し。

尊きものか、ひらつくか、敬有る物か、生物縁、糸類か草木の縁、手たく長き物か。

古人は雷の勢名をひらかせ、大勢に知られ貴く力あり、又歩きたるか威勢強し、終に口伝あり。

○待人早く来る、○矢物出可し、○願望叶ふべし、驚く事甚あり、若勞して後よし、○天氣又風か、○賈利有る可し。



艮 為 山

上根の人は諸事成就するも否されは土が次第くくに減如く順次衰へて増

事なし、一度に富も貴さも無意積り、と官位も昇り富も来る、兩手に物を持たる象、無憂の象死衰哀愁の事あり、出家にものを換むことある意、帆掛能。

ト望節に曰く、遊魚遊網之象、積小成高之象。

苦勞多し、損事憂に逢ふか、心定まらずして遠方へ心通ひ、思案二つとなり、進みたり退いたり、全銀に苦勞多く万事宜しからず。

つまみ、模様、色とり、すべらこくかどたつか、まくか、たたむか、すゑて置か、引立つるか、引掛けるか又救ものか、上より蓋をする物か、さし上るものか、上より覆ふ様なるものか。

古人は頭に云ひ分あり、相手とりたるか、文くわあるか、争ひか、刀有か、骨折りたるかなる可し。

○待人来らず、○矢物出難し、○望望山一つ越しても又先に山有か如し、手間取邪魔多く叶ひ難かるべし、○天氣曇、○賣買見合せてよし。

風山漸

是く事は調はぬ意、次第／＼に進みて良くなる意なり、一度衰へて再び

幸を得る意も有り、心せわしく急がしく思案落付かず、あれも是もと苦勞する意、旅に出度心ある理、月出て曇る象、然れども果し難し。

ト望節に曰く、高山植木之象、積小成大之象。

男より女を慕ふ卦なり、静に行つ時は叶ひ不遂げてよし、ヤラヤくと云ふ文字なり、物事よけれども遅し、思案落付難し、心忙かはしく、住所の苦勞あり、旅立の心有り、口伝有

細工物か、工合よく、手を入れてことかすか、糸紐か引さけるか、つまむか、模様色とり、見事なるか、古人は住所に苦しみ、遠方へ歩み修行杯するか、世を思ひ、人を思ひ、よき静かなる人、文くわに若しむかなる可し。

○待人遅し、○人物出難し、○望望骨折りて十分になり、○天氣雨か風か、○賣買宜しからず。

雷澤帰妹

不義多く他人の勢絶えざる意、正直を蔽ひ隠さるる意、自然に手を任せるに良き卦也、男子は美妻を持つ意あり思ひがけなき災難ある意、我が

このの、我やくに立たぬ事あり、人の氣をはかり、遠慮勝の意、女の嫁せざる象、縁遠き意、子孫二つに在る意あり、

ト筮首師に曰く、 浮雲蔽日之象、 陰陽不交之象

悪色事生じ、ひとへ外に在るものを内へ入りたきと云ふ様なり、色事あれども未遂げす、心身飽ならず、間違ふたり、はづれたり、思ひがけなき物入有り、ものの交りを出す卦なり、  
てむき有るか、音ひびき有るか、うつろなるか、物入るか、金物か、持つ所在るか、

古人は間違ひ事か、女に苦しむか、色々憂苦勞あるか、又相争取りたるか、終り悪しきみなる可し、

○商人間違ふ、○矢物出難し、○銀笠物を無理にこち付けて、悪とく震ふ間違理甚し、○天気雨か、売買間違ひ、

雷火豊

大にさかんなるの卦にして却つて悪しき意損するの心あり、他国に於て富貴に在る意、一代家に放るるか家につき難義ある意、親の蔭子の蔭と

云ふ意あり、白晝に戸を閉すの象故に色情あり、暗中に目を視はる意、親が子に靡められたる意あり、海の象、

ト筮首師に曰く、白晝=中天=文課、背暗向明之象、

心大きく豊に、油断の様にて損する事有り、又手に入る可き物入り兼るか、又は前度宜敷せつ有りしをのがれたるか、ぶら〜と大ヤラにして安氣なり難く苦勞多し、

大きなものといふが自密なり、ふくれたる様に丸ふくらみ、かうもり高なるか、袋の様なるか、

古人は大成人か大なる事をたくみたるか、名所か、大に名を顯し云傳へたるか、成にくき事を、したるなる可し、

○待人来らず、○矢物出難し、○願望思しし口伝あり、○天気晴る、  
○売買宜しからず、

火山旅

初吉にして後人の誹謗する意あり、口論の理有り、同位以下の人に田地住所に付ての敵あり、女は夫に離れるか胸に病を持つか、或は又置ひあ

りて心苦しき意、嫡子は懦弱にて二男より以下宜しき意、身の上二つに分るる意、去年の今頃といふ意、古人は建て喜び、小人は連れて苦しむ意、樂調合の意、文明に名を馳せる人。

ト筮旨節に曰く、如鳥焚巢之象、樂極哀生之象

思案定まらず、住所の苦勞甚しく、又旅立の心あれども心計りにて動き難く、苦しき、頼む、望み、有れども叶はず、氣兼、氣苦勞、四方窓がりたる様なり、何事も思ひし、住所替て良し。

色とり模様、すり磨き、細工見事なるか、す忍て置くか、穴あるか、度々置き所を替ゆるか、又遠方より来りたる物か、引かけるか、くほみ有る物。

古人は住所をはなれ歩きたる小人か、文章残したるか、苦勞したるか、遠方へ行きたるか、大聖孔子御一代の卦也と云ふ。

○待人来る可し、○矢物知れ兼る外へ出たり、○願望おひ立ちらるる様にせはしなくして、少し障有り、○天氣晴天、○売買損有るべし。

巽 爲 風

物事反覆する事多き意、妾に進めは爰に逢ふ意、何事も迷ひ次し兼おる意、他國へ行けば再び帰り来らざる意、風聞ありて其実なき意、風は吹かねば知れず其如く少し指出る心を持つて良き理もあり、口を下に向けて密談するの意、人に思ひ付かるる人、目に見ざる先の意、福く意、凡て繁昌利得の象もあり

ト筮旨節に曰く、風行州偃之象 上行下效之象

心身定まらず、物騒がしく少し争ひの氣味、目上の人にせたりらるるか但し年寄たる女か、遠方へ心通ひ、苦勞多し、總て目上に障り有。

糸紐、飾りくり、文くわ、賈し、又折りたむ物か、まくか、しなやかなるか、うつろにて物を入れるか、金物か、うってひくき有る物、

古人は尊き事修す人か、詩歌のたつ人か、柔らかに名高き威勢有る人なり。

○待人来る少遅し、○矢物出難し但変爻による可し、○願望叶ふても苦勞多し、○天氣風なる可し、○売買勢あり。

兌 爲 澤

兌 爲 澤

男女貴賤を問はず共に集り合ひて悦ぶ意、主君を二人持つ意、無益の費  
又は食客杯の有る意、総て聚る意あり、外見宜しく内心苦しき有る意、  
人に言ふ可き事ありて、いづれより言ひ出さんと迷ひ居る意、他人の事  
を云ひ傳ふる意、當世にさく合ふ人、はかなき夢の類、訶嘆がしく意口  
杯する意、取締りなき意。

ト筮旨節に曰く、江湖養物之課 天降レ雨澤之象

たくひ無き争ひ磨輪は小女二人寄りてたはふれる如くなり、色事有り、  
望み事有り、口をきく、願事時明かず、思案定まらず、金銀の苦勞あり、  
然しながら允は悦の卦なれば目出度事に合ふ可し。

口の微、食物の縁、うつろか、全物類あり、工合良きか、押し合せて  
るか、ひびき有る類、おせ起こしの有る物か、力有る物か。

古人は口におぢあり争ひ有り、女の縁長袖の縁、力あるか、勇あるか  
事みてざるかなる可し。

○待人少し障り有れども言づれ有る可し、○欠物出難し、○願望少し  
争ひ障り有る可し、成らんとして成り兼る。○天氣雨降る可し、○売  
買共に利薄し。



風水 渙

久しく願ひかけたる望事叶ふ事ある意、萬事通達して凶散する意もあり  
心安からざる意、又住所の煩あり、不意の災難に合ふ事有り、色債の悪  
念甚しき意、住所を北に替ゆる事あり、婦人は一度天と離別すれども再  
び飯り来る意もあり、波のうねる象、大に究明の人、小人は凶。

ト筮旨節に曰く、順水行舟之課 大風吹物之象

遠方の人に心通ふか、舟の縁あり、思案定まらず、願ひ望み手間取る  
可し、然し叶ふ可し、順を追つて行くやうなり、口伝。

舟の取なれば其もと遠方より来るものか、後先ほそきか、ならべる、  
しん有り、ひきく見る物か、数有るか、水氣か。

古人名所杯ことくく歩き、遠方へ行き杯するか、親しき人を離るる  
か、憂苦勞多き人なり。

○待人來らず、○欠物外へ出たり、○願望今夜言し事は明朝は交る様  
なり、物事順には行くとも叶ひ難し、口伝 ○天氣雨か風、○売買少  
利ある可し。



水澤節

思ひかけなく人に誘はるる意。何事も手廣くしては凶、思ひ猶も事ある上に世話苦勞の事重なりて辛苦なし居る意。他國へ行かんか旅せんかと思ひ居る意。目下の者に口舌有り。妻子の縁に薄き意。慾を懐む可し。萬事分限に忘じて足る事を知れば吉にして小事は成れども大事は通達し難き意。人に欺かれざる様注意。シワキ意。家元用人毒を飲む理。

ト筮首節に曰く、船行國横之象。寒暑有節之象。竹の節ある如く内に物をふくみ居るか。讒言いひ妨げ有るか。物に時節ある如く心得可し。少し物により傷る心あり。もちげ滞りて、すなをならす、ラツリ変り宜しからず。然れども後に時節来り善き事に合ふなり。用ふるに時節有る物か。ひくきか、縮くくりたべ物か。中にくびれ目あるか。

古人は人に讒言杯せられたるか、邪智有りて事果てざるか、不自由なる事に逢ふたるか。時節を待てるか、隠れたるかなる可し。○待人遅し時節ありて来る。○矢物見え難し。ほどおきて出づる事あり。

る可し。○願望節。く多し然れども末に吉事ある可し。○天氣雨。○売買共に時節を待て良し。



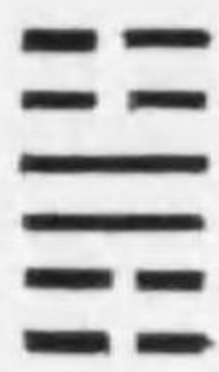
風澤中孚

相談事よく調ふ意。色事に心遣ひあり。人の寵愛に合ふ意。心に感通し合ふ意。人と察談するの象。人に頼む事宜しき意。旅行舟行は平。密通して嫁姓し其かたづけに困る意。家を逆に往く意。女子は父の養不念にして捨てられたる恨あり。故に自力にて独立せんとはげむ。男子も此意あり。絶對の理。

ト筮首節に曰く、鶴鳴子和之象。事有定期之象。女嫁姓したる形なり。舟の形又腹の内に物有り。思案足らず。むしたる苦勞在所の難義。時明き難き事。世話有り。女に付心遣ひ。遠方に心通ふこと有り。

舟の縁遠方の理。あとさきほそきか。中に申分あるか。ラツろか、音ひひきか、生物の縁か、腹のふくれたる様な事か。古人は、文くわ、誠あり。忠孝の道を立てるか、遠方へ心通ふかなる可し。○待人遅くとも来るなり。○矢物つつまやかに仕止て在。○願望叶ふ可し。

○天気は日より。○売買宜し。



雷山小過

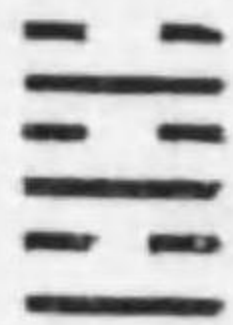
意の如くならざる意、病絶えず、常に口舌ある意、邪魅の鳥に苦しむ意、何事も十分ならぬ意、耳に聞て目に見ざる意、人の中絶ゆる事あり、後悔する意あり、相争きて離るる事あり、なし皮事言ひ度き事をひかへる意、進むに宜しからず、退くに宜しき意。

ト筮首節に曰く、羿鳥遺、音之課、上逆下順之象

他人の気兼心若しく、もの慮慮がちにて窮屈なり、飛鳥音を遺する理なり、小声にものを言ふ様なる卦也、ものを言ひ遺すか、取り残したる様なり、縮くくり、くびれたる所有るか、糸紐つくか、細工物か、長さか、又竹か、又しめ寄せたる物か、自然と出来たるか。

古人は苦しみ多く、口の縁、芸能の理、言葉遺したるか争ひか、又死きは悲しきか、歌人かなるべし。

○荷人来る、○矢物手かかりあり、遠くへ行かす、○願望様子よくして争ひ手回取る可し、○天気曇るか、雨か、○売買利薄し。



水火既濟

疾りに舟を得たる心にて宜敷事に逢ふ理なり、然れども始吉終凶にして萬事終を保ち難き意、不義の色事ある意油断すれば禍あり他卦より此卦に変ずれば大抵吉、出家學者杯には吉卦なり、柔なる教諭を用ふる意、格別金銀に難義のなき人、舟師多くして松山へ上ると云ふ意、陰陽合体、仁の体の意なり。

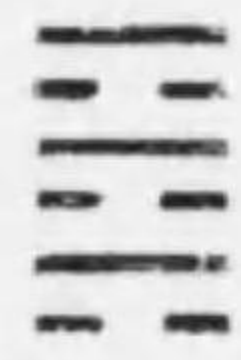
ト筮首節に曰く、舟楫濟川之課、陰陽配合之象

一旦工合良くして破れると知る可し、先色事に多く出るなり、又目に目を付け見る可し、陰陽よく組合ひみちては欠くると知るべし、くみのほりて破れを含みたる理なり、卦は吉にして、わざは悪しきと知るべし、よく取崩へて工合良くなり、あふたる物なり、破れ易きか、生ものの縁、さしこみあるか、まわるか、縮くくりあるか、食物か。

古人はやはらかに文くわあるか、色事あるか、相手取りたる事あるか、工廻したるか、智恵あるか謀ありしかなる可し、○待人早ければ来るなり、○失物出かねる尋ぬ可し、○願望工合良く



測へ夫忽くづる、○天氣日知なり伍し兩を催す可し○賈賈工合はよく理は薄し



火水未濟

女は喜び事有る意、目前憂あれども終に吉なり、何事かなさんとして未だ取かからざる間の意、住所定まらぬか住所屋敷に付て口論するか、又は病人杯ある意、此卦より他の吉卦に交ずれば始終吉、進退晝夜の界夜の憂、曲りなりに濟む意、色情男が女を恣慕する意、五節句二季の意。

ト望首節に曰く、竭海求珠之課、憂中望喜之象

住所の苦勞思案身工定まらず、何となるやら程知れぬといふ様なり、火は上にあり、水は下にありて陰陽交はらず事すまらずして、くわせず、ふら付く様なり、少し色事の萌あり、

おし合ひたる様なる形か、破れ易きか見事なるか、女子の喜ぶものか、文くわ、たぐ物か、かみの入りたる物か、

古人は住所定まらず方々と歩きたるか、智謀有るか、力あるか、待歌あるか、女か、事を果さざるか、

○待人来らず、○失物詮義により出るべし、○願望濟きは遅し、○天氣晴天、○賈賈見合て宜し。

附錄 平澤隨定先生口授 門人寺尾輯

○ 八卦之大意

隨定師云凡卦面に向つて善善明かに見ゆる卦あり、又如何とも吉凶定め難く、発言の時に至り甚疑惑する事あり、是卦象になれざる故なり、先づ八卦の意をよく解する時は決して困却する事なきなり、此所に大切なる秘傳を示さんに、坤の意は人に金を借して其利を取ると云ふ如く其土菴の出来たるなり、坤は金を生する意ある故なり、又奉公人の肝煎杯の少しの禮物にて渡せする類の如し、故に心の落着所あり、乾は金銀なくして志計り大に的も無く空を掘むが如く工夫をなす事止まらず、其志故に身を苦しめ、少しの金銀になる事はまだるく思ひ、眼にかけず我及はざる處の大なる事のみ心に心を用ひ生涯望事はす果は落ぶれて乞食になるの意也、總て乾には沈む意、坤には浮ぶ意あり、坤は心受落着き乾は其裏にして心気落着かざる者なり、艮は物を取り入れる喻は商物を飾り入れて後に利を取る工夫するものなり、離は飾りに外へ出す計りにして後に利を求むる意なし、兌は愚なり、坎は邪氣あり、震上卦にある時

は胸中の動きなり、下卦にある時は善悪共に隠し包むの意、巽は修行の卦なれば人に便る意あり、又乾は不塚と云ふの意なり、喻は諸国より善き人も悪しき人も、尊卑を分たす集めて入心心理、猶乾の別傳を考へ合す可し。

### ○ 八卦体用説

乾は金なり、兌に至りて功あり、乾は生のまゝの金にして兌は火を以て鍛煉し居る金なり、故に乾は古の道、兌は其道を當時に用ひて良き様に引直したりと云ふ意、即乾を体とし兌を用とする也、喻へば正宗の名剣も兌に二つはなけれ夫、火にかけて鍛へる巧拙に因て、鑿劍と鈍刀とも成るが如し、乾は位計り良くして業無し、政務の働きなき世祿の諸候の類、辨才有りて溫和時勢に達する類は皆兌を得るなり、即鍊金の徳なり、其大切の秘傳宜敷活断すべし、其化坤は艮に業あり、震は巽に業あり、上に準じて知る可し、坎離の二卦は独立他の力を借る事なし、天一水を生じ地二火を生ず、水火は即天乾坤の精靈根本にして兌巽は離の枝葉、震艮は坎の枝葉なり、坎離の二

卦は陰陽中爻にあり根本の体たる所以なり。

### ○ 疾病を考ふる傳

人の元氣の根本は命門の火なり、此火のある處は臍下、氣海丹田の地なり、此火高ぶる時は元氣の賊となる、絶ゆる時は死す、常なれば食を化し、皮膚を温めて一身の用をなす、故に病を考ふる時は命門の火を吾胸中に置いて、卦と引合せ見るなり、然る時は吉凶自ら定るなり。

○ 下卦に坎艮坤の有るは苦しからず、是乎人の脾・胃・腎の三臟、命門の火の陽氣を受け用をなす故なり、坎は腎艮坤は脾胃なり、又坎には死靈邪氣の憑る事あり活断ある可し。

○ 下卦に離・震・巽あるは半凶なり、此卦は、心・肝・膽に當る故に此三臟に直に命門の火を受くるは利しからず。

○ 下卦に兌有るは至つて凶なり、兌は肺なり、肺に火を受くれば火尅金にて肺の傷れあり大凶なり。

○ 下卦に乾あるは氣鬱なり、又腎膀胱の混熱なり、凡て変爻を見るに男の病に陽爻の爻は陽症氣分の病也、陰爻の爻は陰症なり、女の病に陰

爻の動くは陽症又は気分分の病なり陽爻の変は陰分血分の病なり。  
 ○下卦に坤あるは胃熱・驚火・肝積・腫満二便不通の類あり。兌・離・震・巽・坎・艮の六卦の内陽爻二爻ある卦を乾一屬し、陰爻二爻ある卦を坤へ屬して考ふるなり。

○ 変 爻 内 傳

- 初爻は、親しき者が敵となると助けになるとおれども助けになる方は少なく敵になる方は多し。
- 二爻は、身命に拘はる場合なり、又苦の中に喜を見る意あり、又女は一度難産したる事あり、男は一度命を失ふ程の事に逢ひたる意なり。
- 三爻、目上より引立てらるゝか、又突落さるゝやうな事あり、故に夜も寐られず苦心する、一世一代に拘る程の場合なり。
- 四爻、一と息つきたる場合なり。
- 五爻、下たる者に傾動せらるゝ意、又下たる者を引立つる意あり。
- 上爻、百事人に任せて仕擯する意あり、又上に立てて下によき人無く、人不足と云ふ意あり。

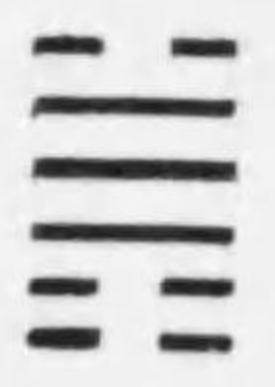
○ 発 言 傳

本卦、変卦、遯、升、互卦の内何れの所より発言せんと思ふ時、先づ第一に本卦を始とし発言すへき事なれども此五卦はよく考へ見る時は何れの卦にてもあれ、感通して自ら心の據る所あり、其所を発言の的として吉凶を定め断するなり、更環の端なきが如しと云ふ。

参考 遯昇自在之傳

遯は退也既往の卦なり、昇は進むなり將來の卦也。自在は古今の卦なり、是往を推し未を知るの法なり、此法は八卦の順即乾・兌・離・震・巽・坎・艮坤の順序に據りて卦を起すなり例へば得卦晋なれば晋を目今自在の卦となし、澤山咸を石に起し遯となし、既往を推し、

遯 咸

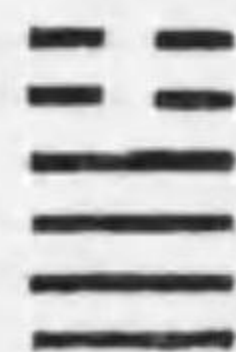


本卦 晋



大壯を左に起し昇となし將來の卦とす、又変爻法は本卦晋の二爻変なれば既往の卦は初爻変をなし、將來の卦は三爻変となす又本卦上爻変なれば既往は五爻変、將來は初爻に戻りて変に立つ之遯昇進退の理にして、以て占考の活用を助

昇。大壯



くるなり。本卦を中心として上卦。下卦共八卦の順に披に卦を起すは凶を見て知るべきなり。

○向卦の時の意

先生云ふ凡て卜筮をなすに念の入れ様なり、然れども亦跡畧にもなし難し。譬は會日などの喋しき節は一道の考なり、改めてよく念を入れんとする時は卦勢を見る事所要なり、先づ一二卦を以て其理を示す、餘は推して知る可し、敵の地上に躍ると云ふ事は誰も知る所なり、其躍り様に男女貴賤の別あり、人に品々あり、職業種々あり、心を勞し働らけども思ひを遂げず、終に隠居する者あり、然れども思ふ通りにはならず、人を頼み助を受けけるものなり、其頼む人も近所になく遠方の人と相談させれば成らず、豫には復の意を含む故に反復往來の意あり、升は油断故に事ならず泰を含む故なり、巽は油断故に金銀を失ふ意あり、遯は退き居て世上を見合はせず艮は若き象なれば諸事若き意あり、乾は復を立ち、坤は人の爲に苦しむ意なり、

○先生語つて曰く、一日傍に人あり談話して止まず、何事ならんと耳を

聳つれども聞えず、故に卦を立つに泰の勢を得たり、思ふに此卦は陰陽交泰天地に満つるの意なり、然れども下賤の者何ぞ天地陰陽の理を論ぜんや、又雷は物の裡を候み或は食類を符つの意、故に當時敵なれば大國の進を恐れ豫に近年米穀高直なり、田作の損を恐るならんと考へ、汝等は田舎の話をなすやと向ふに然りと答ふ、然らば當牧諸國の作物の事ならんと云ふに果して的中したりと、

先生云ふ此卦の意にて、人と卦との相應不相應の意は明らかなる可し、又大人君子の占に、病者兼劑の卦、下賤の意あるは不相應なり、小人の吉凶に貴き卦も亦不相應なり、虚弱の病人に勢の強き卦も不相應なり、此意にて餘は知る可きなり、

○凡そ卦を起したる時に、其人の身上にあるまじき據なる事も、卦面に顯れ不思議なる事あり、是は其人に候き事なれども、目前に見た事、聞き返る事は、其人の念力となり卦面に顯はるるなり、其場合に此人の身の上の事か或は他の事が此人の卦に顯はれたるかと思定むる工夫所要なり、能々考ふべし、

○先生云ふ、凡て占断をなす時は、先づ第一其占者の願望其外の事迄も

其趣を能く吞込まざれば、的中せざるものなり、故に能く道理を辨へて後に卦を起し断ず可しと。宜なる哉。

○ 八卦位取の傳

- 乾は下に、上を敬て治まる。 ○ 坤は上に、下を惠て治まる。
- 兌は上より、下を侵す。 ○ 巽は下より、上を侵す。
- 震は兌の理の強きと知るべし。 ○ 艮は巽の理の強きと知る可し。
- 坎・離は上下相合するの理なり。

○ 中央傳

本卦は東し、変卦は西し、遊は南に、升は北に、互卦進みて中央を取る。中央は心の臟に當る、心は八方に用ふるなり。

占例

川へ入り人をあさむき逃げ去りたる事

時寛延年中の事なりし、涼とる松行違ふ浅草川の枝流れに、主用の事ありて、よしある侍あまた連れ立ち川近く来る、下部ども折の陰にあつまり、休み居ける中に、一人暑さに堪水たければ水あびて暑さを忘れんと河岸のかたへ行けるが、や時後れども何のさたなし、傍輩の下部うち連れて川端に行き見るに柳岸の草にかたひら、はきかの杯ぬさ捨てあり、然るにても氣遣はしと大勢川に入り、或は呼び又は彼方此方と尋ねれども浮び上ることなし、打捨て置かば主人のとかめ受けんと恐れ乗たる人へかくと告げれば、所の人を呼びて如何の訳ならんと尋ねるに、さんか此川にては何時の年にも一人、二人失はざる事なし、定めて川太郎の業ならんと云ふ所のもの申様死骸をさかし申さんにも何處を當に、何を印しに仕らん、今江戸に名高き平沢の何がし、程近く候へば、生死の間を御尋ねあれかりとて、先に立ち先生の宿りに来りて彼の侍を引合せ此よしを頼む、隨貞天辰を拜し震為雷三三三の地雷復三三三を得て考へて云ふ本卦の比和は動くの甚しきに由て手足とす、地雷復は往來のかたちなり、死人の手足の被探に動き働くこと合矣行かずと、然し川端に依頼はき物有故、泥龜に取られ、又は水に溺れたるか云ふ推量なり、今占得たる卦の心にては、此男尋之かたき事ありて水に入りたる体にこしらへ、古

里の方へ走りしなるべし。是より東の方を尋ねらるべしと判断ある。先生の教かたじけなしと。下部類多。所の人まじりて兩國を渡り。葛飾の郡、彼が元の宿などへ行きいらんと尋ねけるに、案に違はず以前の宿につかれを休め、汗を入れて食事などして悠々と座したるをとらへて帰りに戻るなり。

北國辺にて石より人の生れたる事。

会合の同門人より、北國の珍事として先生の辨を請ふ、山火賣三三二の風火家人三三三なり、判談して云ふ、これは一ヶ患の疑り固り形を現したるなり、山火賣にて考ふるに石か岩に陰の字りたるなるべし、風火家人三三三とかりの住居たる心なれば、永くは持ちつぐくまじと也。門人答へていふやう、北國辺の事なるよし、大山鳴動して大きな石二つに破れうちに顔の如くに人の形字りたり、人々不思議の思ひをなし、こはく、直づきて見るに、目口と覚しき所折々動く、戈筭なるもありて、弱など喰はせければ、少レづつ舌打して喰ふ、それより一日々々と成人して後は石を放れ、三拾ばかりの男となる、村人問ひけるは汝此石にこむる時覺えありたるやといふ、彼男いふやう、我何として石にこむりたるか聊か。

覺え無しと答ふ、何にもせよ不思議なるものと地頭へも訴へ養ひ置きしが、三四年を一期として死したるよし、先生の判談の如く假に住居を爲せしは物の一念ならんと、満座不思議の思ひを爲す。

先生入湯の喧嘩を考へ知りたる事

附り十日前に水難を占たる事

鹽貞子十年ほど前下谷辺に宿りをかまへられし時、日もヤラ／＼たぞがれに、おさき娘を誘ひてあたり近き銭湯へゆかれしが、くゞりを入らんとする時、先生の面へ悪氣風に連れて、さつと来る、怪しみ思はれけるは日既に昏か、り陽氣退いて陰にいたるに、正しく今の悪風は陽を吹くは心得すと、妙傳を以て澤風天過三三三の澤天夫三三三を得立止まりて感せられけるは、今宵此湯場に、喧嘩あるへし、澤天夫は物を切るのかたちあり危きを嫌ふは易を知るの常なりとて、それより西へ出て外の湯へ入られしがやがて風呂より上らんとする時、人々評判しけるに、初の湯にて喧嘩の事ありて、二三人あやめたるに沙汰あり、さてはと思ひ、尙天辰を心に拜して拘りたる由先生の帯に託されしを爰に記す。

此陽にて傷を受けたる人の内に、先生心やすき町家の家來あり、これは

此事あらん小日程前にこの男來りて吉凶を問ひたり。水雷屯三三二の風雷益にて三三三汝かならず十日を過ぎずして水辺の難あらん慎しむべしと云はれしより、四五日を経て、彼の家來先生に逢ふて云ふ。此程の水難の御占ひ違ひたりと、先生の曰く其時言ひし如く、十日の日數過ぎぬ内は深く慎しむべしと、再三言ひしを用ひず、かゝる難に遇ひてのち先生の奇斷を感ず。

先生大家へ召されてあて物の事

はや十七八年も跡の事なりしが、先生を大家へ召されて病人の事など言なはせられけるが、末に至りて深き御所望にて、あてもの數々ありし中に、面白き事セツハツ爰に記して餘は略す。

第一、大和の古人なりと書附て出さる

先生卦を得るに、山雷頤三三三山澤損三三二なり。此人は大勇を城廓に籠りて養ひ、謀りことをめぐらすといふも山澤損を以て、末は事遂げず、されども謀並ぶ人なき名人なれば、遠くは楠正成、近くは武田信玄なるべしと云ふ正成なりと答ふ。

第二、日本の古人を問ふ

雷天大壯三三三の澤天夬三三三の辨に曰く是は出家なるべし、我法を弘めんと苦しみ沢天夬の英雄に遇ひたる僧なれば、法華經を世人に廣めたる祖師なるべしと考ふと、果して日蓮上人なりと答ふ。

第三、當時の人なりと問ふ

坤鳥地三三三の雷地豫三三三にて判だんせられけるが、坤に坊主の理あり、人を集め雷地豫にて喜ばせ、己れは苦しみ、又拍子とる理あり名高き浅艸の講師なるべしといふ各々興を催ふしたり。

第四、器財とはかり云て出たり

艮鳥山の三三三風山漸三三三なり考へて云ふ、口廣く艮にて色取り模様あるべし、教あるうちを一つもち来るなり、遠方の理ありて少し火氣あるものならんと断ず、南京にて焼たる茶碗なるよし。

第五、漢の古人といふて出す

風澤中孚三三三の風雷益三三三の辨に曰く、中孚の誠を盡し人を諭し、道を廣めたる人なりと判だんあり、大聖孔子なりと答ふ。

第六、あて物とはかり言ひて出す

卦を得るに火天大有三三三の乾鳥天三三三なり、先生善く考へて是はたわい

無き物を、尊く取りあげてこしらへたる理あり、捨つる時にもろく、此  
かたちある時は甚だ尊く、元はさもなきものなるべし、紙などの類にて  
こしらへたるものと断ず、人々感心ありて尊卑なりと申さる。

第七、百人一首の内と云ふて出す

風水渙三三三の風地觀三三三を以て判断して曰く、水気草木に縁あり、風地觀  
は圓の光りを観るの理あれば國民を思ふ心あるべし、風水渙は物の散り  
放る、時節にあたれば救なるべし、蒼頭の御歌を考へ天智天皇なりと。

病人の占ひの事

或大家より侍来りて病人の吉凶を問ふ風雷益の三三三水雷屯三三三の辨に曰  
く、畏は塵物なるべし、動きまわりて、震の卦下にもある故、内塵なる  
べし、今の医師の見たて違ひたるへし、内癰と見立たる医者あらはたら  
まち治す可しと占ふ、急ぎ歸りて医師をあらため内よりの療治を加ゆれ  
は平愈ありたるよし。

可笑き占ひの事

先生朝夕睦しく交る人の所へ行くに、夫婦口をせろへて言ひけるは、額  
ひの事あり考へて給はれと云ふ、雷地豫三三三の坤鳥地三三三の辨に曰く、額

といふ程のこともあるまじ、何かは知らず上下を見るか左右うしろ前と  
目を配る事あり、其中に坤鳥地を考ふるに穴といふ事あるべしと判断あ  
る、夫婦の人どつと、笑ひ出して言ふ、穴蔵へ入りて道具を尋ねんと思  
ふなりと穴とい、しを可笑がる。

長局に女のかたち現はれし事

或時さる屋敷より侍来りて先生の判を請ふ、雷地豫三三三の坤鳥地三三三を  
得て畏は陰気凝りかたまり、雷地豫と笑を現はしたる事なり陰の残りた  
るなれば女なるべしと占ふに答へて曰く毎夜長局の縁側に、若き女のか  
たち現はれて、夜話の女行き歸る髪を取つて引戻す度々に、或は氣を矢  
ひ、又はさけび、夜は其縁の往來絶え難義に及ぶといふ、先生、重ねて  
陰の盛んなるは陽を以て、これを防げば忽ち静まるべし、妖怪の現はる  
る縁の下の土を三尺とりて炭火をたき陽を加ふるならば、重ねて怪しき  
事あるまじと教への通りにするに其夜より何事かなしとなり。

乱心病人に切かけられし事

山の手より四十才余りの侍来りて吉凶を問ふ、山天大畜三三三の山風益  
三三三を得て、辨に曰く十日か内の災難見えたり、本卦高卦共に、内にも



の含むなり、其際する時災難あるべし、慎み肝要なりと、此人占を深く信じ十日の内つ、しみ申すべしと帰りたりし廿一日程過て又来り先生の御考へ神の如し、某し十日が同斉して、九日目に常る曰、常々親しく相文はる人病の事ありと聞き、最早や十日も明日にあたる今迄の慎みにて何事もあるまじと、彼のかたへ行きて病人に逢ひ苦辯を尋ね、妻子に向ひ食事又は医師の事など細々と向ふ時、思ひかけなく彼の病人心乱れふと起りて刀を抜き、某に頼さまに切りかけたり、然れども先生の占ひをうけ居たる故か心も働き眼もさ、雷火の如き及の下を滑りやうやうに急進をのがれぬ、あしと一日の事なりとて、天の教へを反きたるは某しがあやまりなり、然れども天道未だ捨給はず危難をのがれ有難しと語る

蝶を云ひあてられし事

或人の曰く今途中にて見しものあり、先生は卦を以て知り給ふやといふ、随員子答へて、凡そ天地の向の事易にもる、事なしと、震為雷三三の大雷噬嗑三三を得て曰く、震為雷と見たる時は動物なるべし、震重なれば初ある虫なるべし、然れども交卦噬嗑となれば、動く可き震を噛みしの音のなき虫なるべしと判断あるに、今道にて蝶を思たりと感じたり。

昭和十二年三月廿五日印刷  
昭和十二年三月三十日発行

定價金壹円五十銭

編輯

生生書院編輯部

東京市本郷区駒込片町廿二番地

東京市本郷区駒込片町廿二番地

印刷発行人

大島 順 太

東京市本郷区駒込片町廿二番地

發行所

生生書院

振替口座東京五二九九八番

大島中堂著

眞勢中州之易學

騰字版 全一冊 二百枚

定價金六円 送料金十四銭

眞勢中州先生は古今独歩の占術家にして、其易学は四聖相伝の秘蘊を究擇り下は漢唐宋元明清諸儒の粹醇を咀嚼し、新に生卦法を發明し、範圍圖並に酬酢神明圖を創作し以て振古未嘗有の占法を大成したり。惟ふに孔夫子の十翼以後最も易に功ある者は先生を外にして他に其人なかるべし。然れども先生には唯易源範圍酬酢神明等の圖あるのみにして、先生が易学の真相を窺ふに足るべき良書なし。故に世間偶々先生の易学を私淑する者なきにあらざりしと雖も、多くは是二三門人輩の守にたりし杜撰なる著書に依つて先生を誤解するに過ぎずして眞実に先生の易学を私淑し得たるものは殆んど稀なり。本書は著者自ら之を嘆き、先生が易学の真相を初学新進の士に伝へむが爲に明細にし詳密なる解説を加へたるものなれば、何人たりとも本書を一読せば先生が占法の秘奥真蘊を直に理解することを得べし。篤学者諸賢の必読を候つ（易源圖、範圍圖、酬酢神明圖不付）

大島中堂著

五儀論式仕中占法

騰字版 全一冊 二百枚

定價金六円 送料金十四銭

本書の内容は古来行はれたる各聖の易占を痛作し合理的必中を得せしめんが爲めに恰かも数学上に於て一定の方式即ち因果的五儀論式に依り學術的に未知未究の事柄を推知せしむる方法を説けるが故に何人とも一皮本書を讀いて之を實際に応用せば百占百中一も其占を誤るることなきのみならず、何故に此くの如くの中するのみ、一々その理由を明示することを得れば本占法が從來の誤占とその趣を異にする要点となす故に從來慣用せる神祕的謬占に惑ひつゝある諸君は吉ふに反ばす慮て本占法の基礎となるべき易学講義録を讀みたる諸君に於ても尙更に一歩を進めて占法の奥義を極めむと欲せば必ず眞勢中州之易學と本書とを参照して精義入神の占法の秘妙を悟得せられん事を望む。

大島中堂著

周易病占秘訣

勝字版 定價金二円  
全一冊 送料金十銭

本書の内容は先づ卦象を以て人體、病症、五臟の取次に其の位置に相當し、疾病の起る及び其卦象、治療の方法等の諸項に涉り、詳細なる説明を加へ、一々占判を擧げて断法を承り最次に六十四卦毎に各種の病名と発病の理由とを指示したるが故に初學者と雖も本書を用ひて占断せば万が一も誤ることなく、大抵先住を以て驚歎吉を巻かしむるに足るものがある、更に病源占断者に取つての最良書とす。

大島中堂著

六十人相秘傳

勝字版 定價金貳圓  
全一冊 送料金六銭

始めての業人でも其心して顔面が字真杯を思れば眼裏の所丈には之を判別すること可なりと孔と何れも見ずして其人の相の良否長短等を指察する事如何程上手は人相見と雖も可能の事である然れども易教に依つて之を考ふれば現在迄に有る人物は殆んど死んだ人の相も亦生れぬ子供の顔も容易く之を察知する事か可能なる書は六十四卦毎に相鏡骨路性質等を明細に説き示してある。

大島中堂著

易學千里眼

勝字版 定價金二円五銭  
全一冊 送料金十二銭

本書は古來諸學者が秘中の秘として他傳を許さなかつた靈妙不可思議なる種々の秘法を其のて一巻としたものである、故に若し本書を用ひて判明せば凡そ第一に人を驚かすことが出来るばかりでなく、畏れしむること、笑はしむること、も亦かかしむること、感服せしむること、尊信せしむること、容易く出来る、何故なれば万事皆よく的中するからである、故に之を名づけて易學千里眼と名ふ、希望の諸君は速に本書を用ひて一占を試みられよ。

大島中堂新著

周易物象家秘傳

勝字版 定價金壹圓五銭  
全一冊 送料金六銭

本書は六十四卦の順序に従ひ、毎卦毎爻の下に本相元と建築物其他宮社の真石塔池水竹木及び埋物の場所等を明示したるのみならず、地相家相に依つて神佛の存の障り方災、生靈、死靈其他諸種の靈あること、近き詳細に指明したる秘傳なるが故に白雲家諸君に取つては海に必視の珍書となす、寫志諸君の高需を俟つ。

大島中堂著

秘天眼通卦起源

勝字版 定價金貳圓  
全一冊 送料金六銭

本書は唐の陸龜蒙の秘法を傳へたもので此法を用ひて占断せば万事神妙なる応驗がある然れども地理家宅并に人體顔面病氣杯に應用せば驚くべき靈驗があつて望客の魂を奪ひ懸を寒からしむるに足るものがある、希望の諸君は速かに此法を用ひて一占を試みられよ。

八陣活法明占

勝字版 定價金壹圓  
全一冊 送料金六銭

本書は得卦を八方に配分し、尚之を八八六十四に配分して、單人の趨引進退等を占ふために設けたる秘術であるが本書の骨髄に八陣活法の易解は往古獨の孔明が發明せし秘法にして和漢共に口授面令せし口訣なり故に此術を用ひて人事百敏の事柄を占へば一として妙中を得ることなし、幸に此傳を得たる者は傳ひ知して他伝すること勿れと云ふて居る、今敢て之を勝字して寫志家諸君の参考とす。

眞等中村先生撰述

易數高底秘現註解

勝字版  
全一冊

本や株を売買する者の希望する如きは高下の値中即ち天井値と底値とを前知することである本書は其秘法とも云ふべき天底値數と天底値數の現出する月日とを明示したる秘法を以て一字千金の細がある、故に本秘易占の便益を計り難群の所は詳細なる註解を加へ、且く勝字伝本の體のみに依つて御申込あらんことを請ふ。

大島中堂考案

秘天底値數明示秘傳

勝字版  
全一冊

本書も本書名に表示するが如く期本株式杯の天底値數の現はるる月日を易象に依りて極めて簡単に明示し得べき秘法を伝ふるものである、故に少しく易學の心得ある者が本書を一読すれば自由自在に之を天地に應用すること可なり、希望の諸君は速に本書を活用して一學万金を擧取されよ。

真勞中州先生秘傳(一名普德庵尼口訣)

糴糶窮理占法

贈字版 定價金壹圓八十錢 全一冊 送料金 六 錢

本書は期米株式杯の高下位を判断する秘法で中州先生の秘法を谷川龍山が傳へたものである。先生の自序に曰く余は若歳より万石よく其究理の占に通ず。然れども唯尺牘の占をなすこと能はず。因つて三十年來積思刻苦今や始めて究理の占に通じ神明の徳に通ずることを得たり。故に応否と善情とを識り以て後學に傳ふと此大を見れば本書の真価が分る。

贈 新井白蛾秘傳集

活字版 全一冊

我邦易学の泰斗新井白蛾先生が易学小筌其他の著書中に於て毎々口傳あり口訣あり等の語を遺せることは苟しくも斯学に志す者の皆知る處であるけれども當時深く之を秘して發表せなかつたので、世間唯其語あるを知つて其の實物を見たるものは殆んど稀である、本書は其の秘中の秘として遺高足の門弟數輩を除くの外之が傳授許さなかつた大切の秘法即ち天眼通八目八仙以下二十餘種を採録したるのみならず、今回又更に天眼通其他秘法を増補したるものである。故に其内容実質は悉く精採せられて居る圖て卜筮占断に従事する諸君は勿論易学研究に志す者の座右に置くべき珍書也。

易學遠成講義錄

活字版 全六卷 定價金 五圓 送料金 廿七 錢

本講義錄の要目

- △周易講義
- △象法講義
- △筮法講義
- △占法講義

の四部に分つ

古易占法秘蘊

活字版 定價金壹圓五拾錢 全一冊 送料金 十 四 錢

本書は斯界に名高い新井白蛾先生が初學者の爲に著はされたる易学小筌を解説したるもので、秘法、秘訣に涉ること近も一々親切丁寧に詳解なる説明を加へ毎卦皆悉く占例を記し、全文能フリガナ附としたばかりでなく新井家の筮法をも附記してある。故に本書は一見すれば何故に斯く判断したるか其理由を知ることを得て如何なる事柄にても即座に判断を下すことができらる。

大島中堂新着

易學入門

贈字版全一冊 定價金 百六十 錢 (十六行廿二字詰)

△定價金 壹圓 △送料 十 四 錢

○本書の内容

- (1) 象文の筌 (2) 卦類 (3) 卦意 (4) 爻象 (5) 性質
- (6) 運賃 (7) 防空 (8) 領聖 (9) 住居 (10) 縁起
- (11) 胎孕 (12) 疾病 (13) 取業 (14) 風水 (15) 談合
- (16) 物価 (17) 欠物 (18) 行人 (19) 走人 (20) 晴雨
- (21) 医方

世間には色々な易書がある、けれども初學者に取つての良書は少ない、著者深く之を憐れ余り唯天啓に初學者に指導せんが爲めに編述したる此本書であつて本書の内容は六十四卦皆此の如く二十一項に分ち、一々その理由と断語とを列挙し其の初學者と爲る本書を是れは即座に吉凶判断を下し得る筈になつて居るのみならず凡て平易通俗なる文字を用ひて丁寧親切なる説明を加へてある、故に初學者の諸君は先づ第一に本書を讀んで易学入門の妙味を大歎されんことを希望する。

易學靈叢答障秘錄

贈字版全一冊 定價金 百六十 錢 (十六行廿二字詰)

△定價金 壹圓 △送料 十 四 錢

○本書の内容大略

- (1) 家の向き、間敷、祖先、家柄、書物、掛物、
  - 道路、柱石、石井、又ハ池、堀、遠國へ出て
  - 居る人、主人又は女房の品性、石墓、古木又
  - ハ大木、神社、仏壇、家の所在、倉庫、物置、
  - 石碑、仏像、刀剣、産物の取次、泉水、栗山
  - 其他種々の生靈、允靈、霊り、障り、咎の、
  - (2) 春夏秋冬の占、(3) 凶天災、(4) 卦の大意、(5) 面相、
  - (6) 欠物、(7) 行人、(8) 婚姻、(9) 胎孕、(10) 医方、
  - (11) 晴雨、六十四卦皆同じ
- 以上は只其大畧を示した天である。

372  
340

大島中堂編輯

易學叢成

(勝字版全一冊 凡七十枚)  
十六行三十三誌

△定価金二圓 △送料十四銭

○本書の内容  
 (1) 緒言 (2) 易の真義 (3) 感應 (4) 中法 (5) 八卦の所屬及名称 (6) 地理家宅占法 (7) 方位妙中法 (8) 人相占法 (9) 天候予測法 (10) 米稼鑑定法 (11) 運勢變動の占 (12) 過去現在未来の占 (13) 胎児の治 (14) 居住情占察法 (15) 射覆治断例

○以下六十四卦の占断

三三 乾 爲 天

(1) 卦の大意 (2) 性質 (3) 運勢 (4) 貧富 (5) 職業 (6) 住所 (7) 縁談 (8) 子孫 (9) 売買 (10) 旅行 (11) 病氣 (12) 十一項に分類して六十四卦同様にあり

易占自在

(勝字版全一冊 凡百枚)  
十六行三十三誌

△定価金三圓 △送料十銭

○本書の内容

本書は斯界に名高き新井白蟻先生著易学小筮の全文を掲げたる後に古易断中の断語を記して之を利記し其次に古易断時言中の占詞を抜き取りて之を並記し以て初學者の便利を謀つた良書である次に本書を演のは何人にてん先生同様の断をなすことが出来る新りてん先生の占法の秘訣を悟得することが出来る真実便利な書である希くは一本を備へて座右の宝典とされんことを

改 保田虚齋 撰評

明治 射覆撰評録

(勝字版 全二冊)

明治の巻 定価金貳圓 送料十四銭  
大正の巻 定価金貳圓五十銭 送料十四銭

本書は実占練習を目的とした所の射覆の(あてもない)答案集で其一半は明治三十九年より同四十二年迄の間、易占新報並に陰陽新聞及人相新聞紙上に於て、保田虚齋氏が撰評されたものと又其一半は大正二年より同八年迄の間陰陽新聞及人相新聞紙上に於て、大島中堂が撰評したるものとを集成した書であつて、本書中に輯録したるものはいづれも皆虚齋君が熱心研究の結果品であるから、実占練習の絶好の指針であるばかりでなく一般の易学研究家にとつても容易に得難き所の良書である、之れ故て本書を輯録し、一つには以て斯界に昔有なる盛事の記念となし、二には以て斯学研究家の爲に最好資料を提供する所以である。

終

